このたびは「インプレッサ」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任がうたわれております。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- 「ナビゲーションシステム」の取り扱いについては、それぞれ別冊の取扱説明書を併せてお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

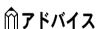
IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや車体が損傷する可能性があることを回避法とともに示しています。

	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

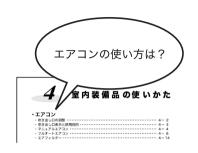
禁止行為はイラストに禁止マークが入っています。

	イラストに左記のマークを記載して禁止事項を示しています。

その他の表示

	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

	グレード等により異なる装備については よつばマークがついています。

本文の見かた

このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

検索について

本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

タイトルから探す

本書の構成
ツメタイトル
各章の目次

場所から探す

イラスト目次............0－1 ページ

警告灯から探す

警告灯一覧 ....0－9 ページ

名称から探す

さくいん ....さくいん－1 ページ

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「必読！安全で快適な 運転のポイント」は重要です。
しっかりとお読みください。

IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

イラスト目次

外観

けん引フック…6－18
ヘッドランプ…3－4
ボンネット…2－17
ワイパー…3－8
フォグランプ…3－13
タイヤ…7－9
ドアミラー…2－63
ドアの施錠・解錠…2－5
チャイルドプルーフ…2－10
000174

リヤワイパー…3－10
トランク…2－20
制動灯…7－16
燃料補給口…2－15
リヤワイパー…3－10
リヤゲート…2－18
制動灯…7－16
燃料補給口…2－15
000027

インストルメントパネル

室内

発炎筒…6－13
フロントシート…2－25
チルトステアリング…2－62
ルームミラー…2－62
サンバイザー…4－46
セレクトレバー（オートマチック車）…3－45
チェンジレバー（マニュアル車）…3－44
スポットマップランプ…4－54
パワーウインドゥ…2－11
駐車ブレーキレバー…3－43
コンソールボックス…4－48
フロントシートベルト…2－35
ルームランプ…4－54
リヤシートベルト…2－38
リヤウインドゥデフォッガー…3－15
000029

エンジンルーム
<ターボ車>

＜ターボ車以外＞

パワーステアリングフルードリザーバータンク…8−4
ブレーキフルードリザーバータンク…8−4
000178
冷却水注入口…6−22、8−4
エンジンオイルレベルゲージ…8−3
冷却水リザーバータンク…6−22
エンジンオイル注入口…8−3
ウインドゥウォッシャータンク…3−11
ヒューズボックス…6−25
バッテリー…6−23

荷室
＜ワゴン＞

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

＜セダン＞

000033

警告灯一覧

表示灯一覧

1 必読！安全で快適な運転のポイント

キーナンバープレート、セキュリティ IDプレートの保管

- キーナンバーは合いかぎを作るときに、セキュリティ IDナンバーは作った合いかぎをイモビライザーへ登録するときに、必要となる物です。これらのナンバーが打刻してあるプレートは盗難防止のため、車の中には置かず大切に保管してください。
- イモビライザー機能付車は、キーを紛失したときに、盗難事故を防ぐため全てのキーのイモビライザー再登録が必要となります。このとき、セキュリティ IDナンバーと全てのキーをスバル販売店にお持ちになってください。

☆2－2ページ参照

点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
☆別冊のメンテナンスノート参照

タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法的に義務づけられています。タイヤ空気圧は応急用スペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月１回程度）に点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
☆7－9、8－6ページ参照

バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ない時は上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。
☆2－23ページ参照

100028

シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRS エアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☆2－32ページ参照

100029

運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100230

サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながることがあります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし、けがをするおそれがあり危険です。

100231

ルーフに荷物を積むとき

- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使いますと、車体に損傷を与えたり、サンルーフの開閉に支障をきたすことがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに添付の取扱説明書を必ずお読みください。

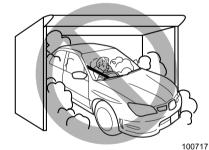
100879

インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、スイッチの押されかたによっては、故障や加熱・火災の原因になります。
- SRS エアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆2－51ページ参照

100232

危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

100233

換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不充分になり、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

100717

車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。

こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

燃料には無鉛ガソリンを

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料等の不適切な燃料やガソリン添加剤は、エンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。
- ターボ車以外は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ターボ車は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。
  無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジン性能を充分発揮できないこともあります。また、ノッキングが起こりやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。
  指定ガソリンは、フューエルリッド（給油口フタ）の裏に記載されています。

☆1－24ページ参照

お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合はチャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☆2−52ページ参照

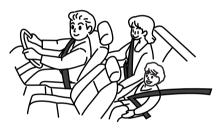
100036

100234

チャイルドシートを使用して

- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまの場合、チャイルドシートを使用してください。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。

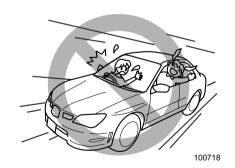
〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9〜18 kg	18〜36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月〜9か月頃まで	4か月〜4歳頃まで	4歳〜12歳頃まで

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていない時でも確実にシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけた時などにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまへはチャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせたりした状態では走行しないでください。

100037

ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。
- ドア開閉時、爪などを挟まないようにご注意ください。

☆2－4、2－10ページ参照

100178

窓やサンルーフから顔や手を出させないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

100718

パワーウインドゥに気をつけて

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはパワーウインドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。
  お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－11ページ参照

100235

車から離れるときはご一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキ等、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

100180

オートマチック車の特徴と運転上の注意

重要

☆3－45 ページの「オートマチック車の運転」も併せてお読みください。

クリープ現象があります

- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、(アイドルアップ)、クリープ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルを確実に踏んでください。
  必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

100887

強い加速を必要とするときキックダウンができます

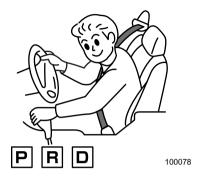
- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- スポーツシフト装備車でマニュアルモード選択時は、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、Dに戻してください。

ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。

100077

セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないと（スポーツシフト装備車はセレクトレバーのボタンを押さないと）Pから動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため後退した後は、すぐRから一度Nに戻す習慣をつけてください。

セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときはP、前進するときはD（後退はR）の位置にあることを目で確認してください。

発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

走行中はセレクトレバーをNにしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

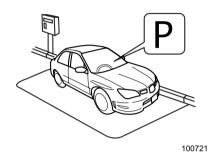
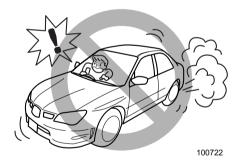
100720

走行中（前進時）は、Rにしないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

車が完全に止まらないうちにPに入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

駐車するときはPにして、駐車ブレーキを確実に

車が動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーをPにし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1－20ページ参照

100721

車から離れるときはエンジンを止めて

- クリープ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーをPにして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。

100887

停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。

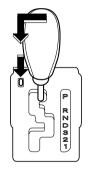
100722

Rに入れるとブザーが鳴ります

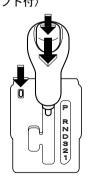
Rに入れるとブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

シフトロックシステムがついています

セレクトレバーの誤作動を防ぐシステムです。

- Pからのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーをPから他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
  (P以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- Nでエンジンスイッチを OFF にした場合、しばらくするとレバーをPに操作することができなくなる場合がありますので直ちにPへ操作してください。
  もし、セレクトレバーがNからPに操作できないときは、エンジンスイッチをONにしてからPへ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーをPに操作してください。

Pからのレバー操作ができないとき

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもレバー操作ができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

①駐車ブレーキレバーを引きます。
②ブレーキペダルを踏みます。
③シフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーを操作します。
ただし、スポーツシフト装備車はセレクトレバーのボタンを押しながら操作します。

〈ゲート式〉

100079

〈スポーツシフト付〉

100549

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

☆3－56、6－5、7－13ページ参照

走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－33ページ参照

- ボンネット内部は高温になっています。ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。やけどをすることがあります。エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- オーバーヒートしてエンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

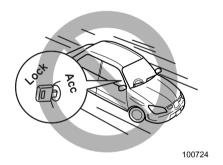
☆6－21ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように点検してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。

100723

ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

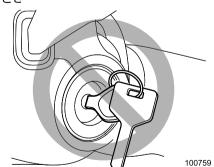
100236

走行中はエンジンスイッチを切らないで

- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－64、3－65ページ参照

- 走行中エンジンスイッチを LOCK にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。

100724

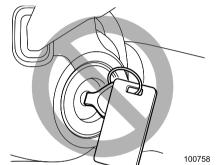
キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーをキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

100759

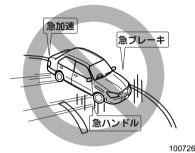
IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

ABSを過信しないで

ABS は必ずしも制動距離を短くするものではありません。
下記の道路などでは ABS が作動した場合、ABS が付いてない車よりも制動距離が長くなることがあります。
ABS が付いてない車と同様、充分な車間距離をとって安全運転に心がけてください。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）

☆3－62ページ参照

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。
ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

100725

ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。
また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1－19ページ参照

100726

雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
  通常より注意して安全運転に心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

☆3－64ページ参照

〈エンジンブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

〈シフトダウンとは〉

- マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。
- オートマチック車ではセレクトレバーを[D]→[3]、[3]→[2]、[2]→[1]にすると低速ギヤに切り替わります。
  また、スポーツシフト装備車のマニュアルモードではステアリング部のスイッチまたはセレクトレバーを⊖側（ダウン側）にすることで低速ギヤに切り替わります。
- シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、進路状況や車間距離に注意して行ってください。

☆3－54ページ参照

横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転しましょう。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

100727

高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。とくに高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆8－6ページ参照

- 万一のために停止表示板（停止表示灯）を車に備えておいてください。
  停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。

100191

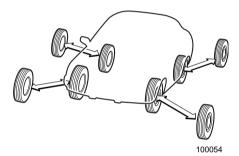
こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

ブレーキパッドの摩耗警報

パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

4輪とも冬用タイヤで

- 雪道走行が予想される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定空気圧および指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

☆1－14ページ参照

100054

控えめな運転に心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
  - ・オートマチック車：
    スノーホールドモードスイッチをONにしてください。

☆3－55ページ参照

  - ・マニュアル車：
    チェンジレバーを“2”にします。

☆3－44ページ参照

タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に

- タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に取り付けてください。

☆5－8ページ参照

- タイヤチェーンを取り付けると、前後輪の接地力バランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。
  急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。

100192

燃えやすいものの近くに車を止めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm 以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

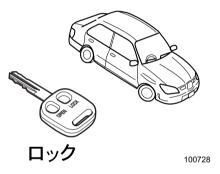
坂道に駐車するときは

無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

①駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☆5−7ページ参照

②マニュアル車：　チェンジレバーを以下の位置に入れます。
下り坂；“R”
登り坂；“1”
オートマチック車：セレクトレバーを P に入れます。

③輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

なお、急な坂での駐車は避けてください。

車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動き出したり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100729

仮眠するときは必ずエンジンを止めて

仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100059

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。(5秒以上)オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷することがあります。

100730

エンジンルーム内には冷却ファンがついています

エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがありますのでボンネットを開ける場合は、ご注意ください。
回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

SRSエアバッグシステムとは

- 運転席、助手席SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチがONのとき車両が前方から強い衝撃を受けた場合のみ作動します。この装置は運転者および助手席同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置で、横方向や後部からの衝突、あるいは横転などの衝撃では作動しないよう設定されています。
- SRSサイドエアバッグは、エンジンスイッチがONのとき車両が側面から強い衝撃を受けた場合のみ作動し、運転者および助手席同乗者への側面からの主に胸部、頭部にかかる衝撃をやわらげる装置です。

＜運転席SRSエアバッグ＞

100061

＜助手席SRSエアバッグ＞

100062

＜SRSサイドエアバッグ＞

100560

シートベルトは必ず着用して

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2－23、2－32ページ参照

お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。
  スバル純正チャイルドシートの使用方法は付属の取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1－7、2－42ページ参照

燃料補給時の注意

指定燃料を必ずご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

☆1－6ページ参照

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど火気を絶対に近づけないでください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。
  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- 必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
- フューエルキャップはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。
- 給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。(座ることで再帯電することがあります)
- 給油口に他の人を近づけないでください。
- セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後はフューエルキャップを“カチッ、カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締っていることを確認してください。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装着されています。

クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかかりません。

☆3－41ページ参照

AWD※車は万能車ではありません

二輪駆動車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

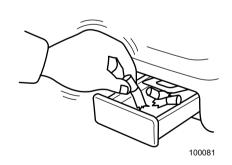
☆3－56ページ参照

※AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話等を手で保持して通話したり、メールの送受信等のために画面を注視することは禁止されています。

100237

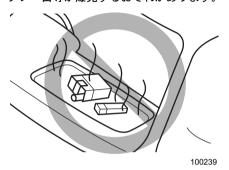
アクセサリーの取り付けに注意

ウインドゥにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

100238

灰皿※を使用したあとは

マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。

※灰皿はディーラーオプションです。

100081

車内にガスライター、スプレー缶等を放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶等を放置しないでください。車室内が高温になるためライターやスプレー缶等が爆発するおそれがあります。

100239

排気管をときどき点検して

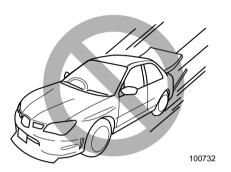
排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

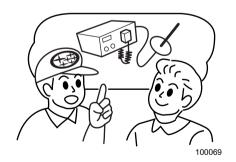
100197

リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

ラジエターが熱いときキャップを外さないで

ラジエターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

100731

不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながることがあります。
- スバルが国土交通省に届け出した部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。（タイヤ、ホイール、マフラーなど）

100732

電装品、無線機を取り付けるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
スバル販売店にご相談ください。

100069

純正部品をお奨めします

100070

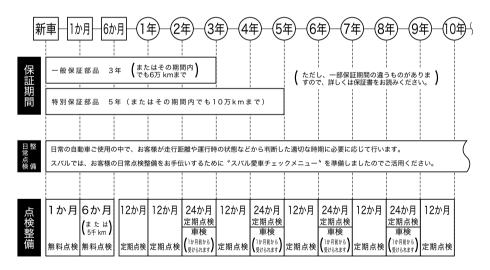
- マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因になることもあります。
  例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
- 詳しくは「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。

点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えております。お客様が安心してお車をお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。
- AWD車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

保証書・メンテナンスノートについて

別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証について

保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。
一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややりかたなどが記載してあります。よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千 kmを超える場合は5千 km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

保証期間と点検整備時期

必読！安全で快適な運転のポイント

環境にやさしい運転をするには

常にタイヤの空気圧を適正にしましょう。

適正空気圧で50 km走行すると50 kPa〈0.5 kg/cm^2〉減のときに比べて、ガソリン約150 ccの節約になります。
＊CO_2 約1,250 g削減〈650 km/月〉

走行する前に、不必要な荷物は降ろしましょう。

10 kgの荷物を降ろして50 km走行すると、ガソリン約15 ccの節約になります。
＊CO_2 約130 g削減〈650 km/月〉

長時間停車するときは、エンジンを止めましょう。

5分間のアイドリングを止めると、ガソリン約65 ccの節約になります。
＊CO_2 約420 g削減〈10回/月〉

空吹かしはやめましょう。

空吹かしを1回やめると、ガソリン約6 ccの節約になります。
＊CO_2 約1,150 g削減〈300回/月〉

エアコンの使用は、少し控えましょう。

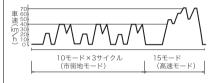
エアコンを6分間OFFにすると、ガソリン約70 ccの節約になります。
＊CO_2 約130 g削減〈3時間/月〉

発進や加速はスムーズにしましょう。

急発進を1回やめるとガソリン約17 cc、急加速を1回やめるとガソリン約11 ccの節約になります。
＊CO_2 約360 g削減〈各20回/月〉

経済速度で走行しましょう。

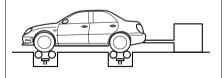
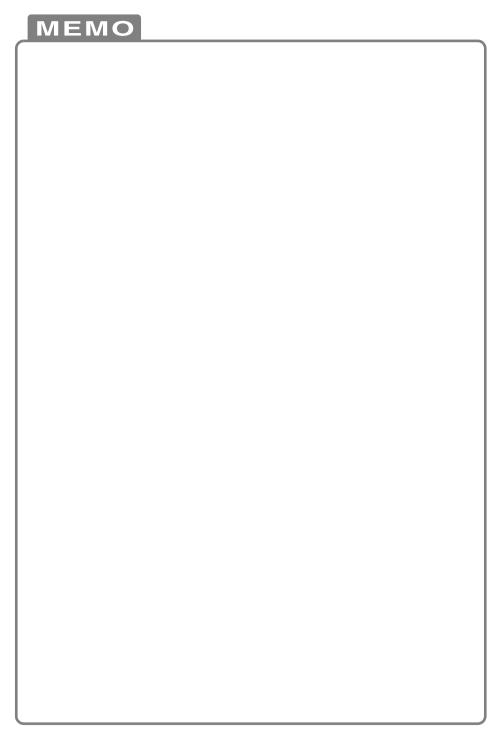
- 一般道路や有料道路では、法定速度で走行すると燃費が良くなります。
- 高速道路では、100 km/hより80 km/hで走行すると燃費が10～30％向上します。
- 下り坂や減速時には、エンジンブレーキを使いましょう。燃料噴射が停止し、燃費向上につながります。

アドバイス

10・15モード燃費とは
車両カタログに記載されている「10・15モード燃費」とは、一定条件にしたがって測定した燃費です。
このモードは、市街地モード（10モード）と高速モード（15モード）の2パターンを測定したものです。
測定方法は、10の走行パターンを想定したテスト（市街地モード）を3回行い、続けて15の走行パターン（高速モード）を想定したテストを1回行います。

●10・15モード

100639

平均速度：約23 km/h
走行距離：約4.2 km

この測定は実走行ではなく、測定装置（シャシーダイナモメーター）上に車両をのせて行います。

100733

「10・15 モード燃費」は、都市内走行状態を想定して測定したもので、実際の走行とは異なる場合が多くあります。
例えば、天候や路面、車両重量、運転等に応じて燃費が異なります。

対象車種は2.0L乗用車（オートマチック車）の燃費11.7 km/L（10・15モード）を基準に計算してあります。

参考資料：社団法人日本自動車工業会「あしたへ　ECO-MOTION」参照

2 運　転　す　る　前　に

・各部の開閉

・シート

・シートベルト

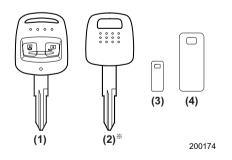
・SRSエアバッグシステム

・ハンドルとミラーの調整

IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使います。

1.5i、 1.5R、 WRX：
(1) リモコンキー
(2) キー※
(3) キーナンバープレート

※オプション内容によっては (2) のキーが (1) のリモコンキーになる場合があります。

STI：
(1) リモコンキー
(イモビライザー機能付)
(2) キー（イモビライザー機能付）※
(3) キーナンバープレート
(4) セキュリティ IDプレート

※spec C 16 インチホイール付車は（2）のキーが 2 本となります。（1）のリモコンキーはつきません。

- リモコンキーを使うと、ドアやリヤゲート（ワゴン）の施錠、解錠がボタンで操作できます。
- キーナンバーは盗難防止のため、キーナンバープレートに打刻してあります。
- セキュリティ IDプレートにはキーをイモビライザーに登録するためのセキュリティ IDが打刻してあります。

☆2－3ページ参照

アドバイス

- キーナンバープレートとセキュリティ IDプレート（イモビライザー機能付車）は、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートとセキュリティ IDプレートは車内に置かないでください。
- 万一に備えてキーナンバーとセキュリティ ID（イモビライザー機能付車）をメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

■イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

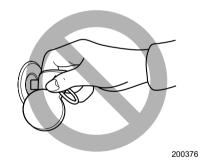
イモビライザー機能付きキーには個々の違った識別コードが登録されています。
差し込まれたキーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードのないキーなどではエンジンを始動することができません。

⚠ 注意

キーは水にぬらさないでください。

アドバイス

- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。車から離れるときは必ずドアをロックしてください。
- キーは、最大4つまで登録できます。
- 合いかぎを作る際は、セキュリティ IDプレートに打刻されているセキュリティ IDが必要になりますので、セキュリティ IDプレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため全てのキーの識別コードの再登録、リモコンの再登録をお奨めします。
- 登録は、スバル販売店でのみ行えます。

●イモビライザー表示灯

通常は点滅していてイモビライザーが作動していることを示しています。エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯し、エンジンの始動ができます。正規のキー以外を使うと、表示灯が点灯しエンジンを始動できません。もし、正規のキーを使っても表示灯が点灯し始動できない場合、一旦キーを抜いて再度やり直してください。

⚠ 注意

- キーは強い磁石の近くには置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
- ダッシュボードの上など高温になる場所には置かないでください。
  キーは水にぬらさないでください。
- 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
  ① キーグリップに金属製のものが接しているとき。

200376

次ページへ ▶

運転する前に

▶ 前ページより

② キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき。

200377

③ キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき。

200378

④キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき。

アドバイス

エンジンスイッチにキーを差したままにしておくと、イモビライザー表示灯が再度点滅しますが、エンジン始動はできます。

ドア

■ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。
ドアを確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。

200114

⚠ 注 意

ドアを開閉するときには

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあり危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。

アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けると、ブザーが鳴ります。
  ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆2－10、3－3ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので選択しご使用ください。

施錠している場合

・お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
・停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
・シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

解錠している場合

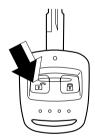
・万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

電波により、車から離れたところ（約1 m）から全ドア（リヤゲートを含む）の施錠・解錠ができます。

●解錠

車のまわりからリモコンキーの「OPEN／🔓」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が解錠します。
このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。（一部車種除く）

200137

200169

●**施錠**

車のまわりからリモコンキーの「LOCK／🔒」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が施錠します。
このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。（一部車種除く）

200138

200170

アドバイス

車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。

セダンの場合、トランクを開けたまま施錠すると非常点滅灯（ハザードランプ）が５回点滅し、トランクが開いていることをお知らせします。（一部車種除く）

●**ルームランプ連動**

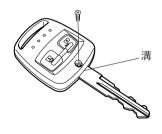
ルームランプスイッチが中間位置にあるとき、リモコンにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが点灯し、一定時間後に消灯します。点灯中、リモコンの「LOCK／🔒」ボタンが押された場合、またはエンジンスイッチにキーを差してONにしたとき､ルームランプは消灯します。

●**自動施錠**

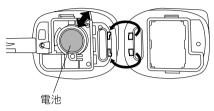
解錠してから 30 秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。

アドバイス

- 車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、リモコンの再登録をお奨めします。
  リモコンの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときや半ドアの場合、作動しません。

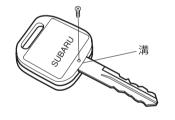
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ダッシュボードの上など直射日光が当たり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
  - ・強い衝撃を与えないでください。
  - ・電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
  - ・水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。

●リモコンキーの電池交換

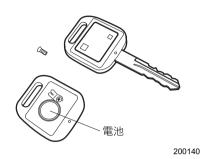
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

使用電池……ボタン電池CR1620

▼STI

①スクリュー を1本外し、溝部にドライバーを差し込み、カバーを外します。

200872

②電池を取り出し、新しい電池の⊕側を下にして挿入します。

200893

③カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

▼STI以外

①スクリューを1本外し、溝部に⊖ドライバーを差し込み、カバーを外します。

200139

②電池を取り出し、新しい電池の⊕側を下にして挿入します。

200140

③カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

⚠ 注 意

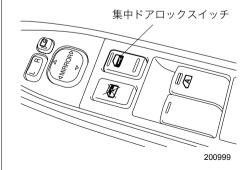
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
  故障の原因となりますので、端子部分などを曲げないよう、注意してください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■車外からキーによる施錠・解錠

キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

200141

アドバイス

車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。その他のドアはセフティノブまたは集中ドアロックスイッチで施錠・解錠してください。

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチを前側（施錠側）に押すと全てのドアが施錠されます。後ろ側に押すと全てのドアが解錠されます。
ワゴンはリヤゲートも同時に施錠・解錠されます。

集中ドアロックスイッチ

200999

⚠ 注 意

セフティノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

エンジンスイッチにキーが差し込まれている場合、ドアを施錠しないように働き、キーが車内に残したままになることを防止する機能です。

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

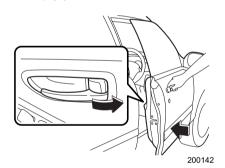
- 運転席ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチを前側（🔒側）に押してドアを施錠しても、自動的にドアが解錠されます。

▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- セフティノブで施錠し、ドアを閉めたとき機能は作動せず施錠されます。
- 車外から合いかぎを使い施錠した場合、機能は作動せず施錠されます。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からセフティノブによる施錠・解錠

セフティノブを後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠します。

200745

■キーを使わない車外からの施錠

●フロントドア

①セフティノブを後ろ側に回します。

②ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

200142

IMPREZA GD2-009301〜099999, GD3-006701〜099999,
GDA-020201〜099999, GDB-040301〜099999,
GDC-002001〜099999, GDD-002001〜099999,
GG2-079301〜099999, GG3-048601〜099999,
GGA-014601〜099999, GGC-002001〜099999,
GGD-002001〜099999

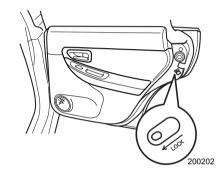
●リヤドア

セフティノブを後ろ側に回してドアを閉めます。

200143

■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンキー照明が点滅します。(照明の点滅は一部車種除く)ただし、エンジンスイッチがONのときは警報は作動しません。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

チャイルドプルーフ

左右のリヤドアにあり、レバーを矢印方向にすると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくすることができます。後席にお子さまを乗せたときにご使用ください。

■使用方法

チャイルドプルーフのレバーを矢印方向に動かしてドアを閉めると、車内から開けられなくなります。解除するときはレバーを矢印とは逆方向に動かしてください。

200202

■チャイルドプルーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引いて開けます。

車内から開けるときは、セフティノブを解錠にし、ウインドゥを下げ車外のドアハンドルを引いて開けます。

パワーウインドゥ

パワーウインドゥは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。

⚠ 警 告

開閉するときは

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－12ページ参照

⚠ 注 意

ウインドゥの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因になります。

アドバイス

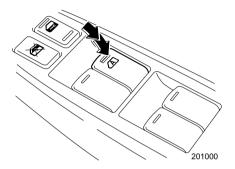
- 車体の構造上、後席のウインドゥを全開にすることはできません。
- 下記操作を行うとパワーウインドゥのブレーカが作動してウインドゥの開閉ができなくなることがあります。
  - ・運転席ウインドゥを全閉または全開にした後、スイッチを同じ方向へ数秒間操作し続ける。
  - ・3 席以上のウインドゥを全閉または全開にした後、それぞれのスイッチを同時に同じ方向へ操作し続ける。

  この場合、ブレーカ復帰後に必ずパワーウインドゥの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、運転席ウインドゥの自動全開（全閉）およびウインドゥ反転機能は作動しません。

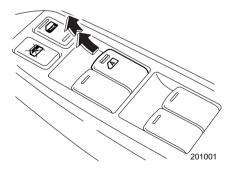
☆2－14ページ参照

■スイッチの操作

●運転席ウインドゥの開閉操作方法

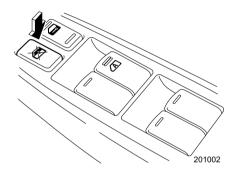
スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
初期設定がされないと運転席ウインドゥは自動で全開（全閉）しません。

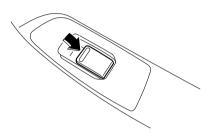
☆2－14ページ参照

開けるとき：
- スイッチを軽く押します。押している間ウインドゥが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウインドゥの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

201000

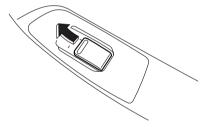
閉めるとき：
- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウインドゥが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウインドゥの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。

201001

●オフディレイ機能（キー OFF後の作動）

運転席のウインドゥはエンジンスイッチをONからAccまたはLOCKにした後でも、約 30 秒間は昇降することができます。ただし、その約30秒の間に運転席のドアを開けて閉めると、ウインドゥの昇降はできなくなります。

●ロックスイッチの操作方法

ロックスイッチを押すと助手席と後席のウインドゥは開閉できなくなります。（ロック状態）

もう一度スイッチを押すとロックは解除されます。

201002

●助手席、後席ウインドゥの操作方法 ⌘

それぞれのウインドゥを開閉します。スイッチを操作している間作動します。
開けるとき：スイッチを押します。

200204

閉めるとき：スイッチを引き上げます。

200205

■ウインドゥ反転機能

運転席のウインドゥが自動全閉中、窓枠とウインドゥとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドゥの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠ 注 意

- **走行時（約10 km/h以上）、ウインドゥ反転機能は作動しません。**
- **ウインドゥを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないように注意してください。**
- **ウインドゥ反転機能は自動全閉時のみ作動します。スイッチを引き続けた状態では作動しません。指など挟まないように注意してください。**

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドゥに加わるとウインドゥ反転機能が作動することがあります。
- 故障などでウインドゥ反転機能が作動してしまい運転席ウインドゥを閉めることができない場合、スイッチを引き続けると閉めることができます。または 10 km/h 以上で走行しながらスイッチを引くと閉めることができます。
- ウインドゥ反転機能が作動した後、数秒間はスイッチを操作してもウインドゥが作動しません。

次ページへ ▶

▶ 前ページより

- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
  初期設定がされないと、ウインドゥ反転機能が作動しません。

■パワーウインドゥの初期設定

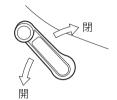
バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定を行ってください。パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウインドゥの自動全開（全閉）

☆2－11ページ参照

- ウインドゥ反転機能

☆2－13ページ参照

●初期設定のしかた

①ドアを閉め、エンジンスイッチをONにします。

②運転席ウインドゥスイッチを下に押し、半分くらいまでウインドゥを開けます。

③運転席ウインドゥスイッチを上に引き続け、ウインドゥを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

手動式ウインドゥ

後席ドアにあるハンドルを回して開閉します。

〈後席助手席側〉 〈後席運転席側〉

200206

燃料補給口

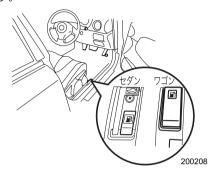
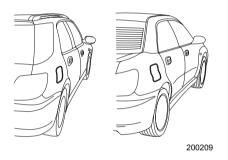
メーターの燃料計に燃料補給口が右側にあることをお知らせする表示があります。

- 使用燃料
  ターボ車：　無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン
  ターボ車以外：無鉛レギュラーガソリン
- タンク容量：
  約60 ℓ（WRX、STI）
  約50 ℓ（1.5i、1.5R、STI spec C）

201110

⚠ 警告

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

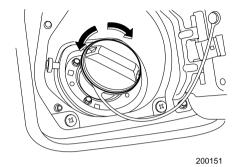
- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

☆1－24ページ参照

⚠ 注意

セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。

■フューエルリッドの開閉

開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。

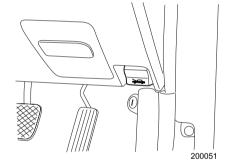
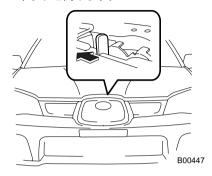
200208

200209

閉めるときは、ロックするまでフューエルリッドを手で押し付けてください。

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回して閉めます。

200151

ボンネット

> ⚠ **注 意**
>
> **走行後すぐに開けるときには**
> 部品が熱くなっているので、やけどをしないように注意してください。
>
> **ボンネットを開けるときには**
> ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

■開けるとき

①ボンネットのオープナーレバーを引きます。運転席側のインストルメントパネル右下にあります。

200051

②フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを左に押してロックを外し、ボンネットを開けます。

B00447

③ステーをホルダーから外し、ボンネットのストッパー穴に入れ、固定します。

200903

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約30 cm）手を放します。
確実にロックされていることを確認してください。

> **⚠ 注 意**
>
> **ボンネットを開閉するとき**
> - ボディ近くまで降ろして手を放す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
> - 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
>   確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
> - 風の強いときには充分注意して開けてください。突然ステーが外れて閉まることがあります。

> **アドバイス**
>
> **ボンネットを閉めるとき**
> ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。

リヤゲート（ワゴン）

■施錠、解錠
電波式リモコンドアロック、または集中ドアロックスイッチにて施錠、解錠ができます。

■開けるとき
リヤゲートハンドルを引いてリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。

■閉めるとき
リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。
半ドアでないことを確かめます。

> **⚠ 注 意**
>
> - 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
> - 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。

- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープ等が噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

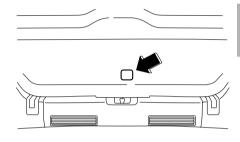
アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- リヤゲートハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開いてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

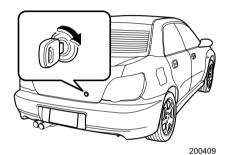
万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障等でリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

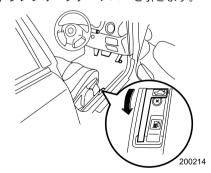
①リヤゲートトリムのキャップを外します。

900066

②レバーを矢印の方向に動かします。

900067

③車外からリヤゲートを開けます。

トランク（セダン）

アドバイス

車から離れるときには
盗難防止のため、トランクの中に貴重品を置かないでください。

■車外から開けるには
キーをキーシリンダーに確実に差し込んで、右に回すと解錠され、同時にトランクが開きます。

200409

■車内から開けるには
トランクオープナーレバーを引きます。

200214

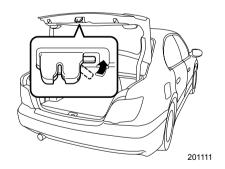
■閉めるとき
上から押さえつけるように閉めると自動的にロックされます。

警告

走行するときは
- トランク内に人を絶対に乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- トランクは中から開けることができません。お子さまが入らないよう注意してください。閉じ込められると重大な傷害を受けるおそれがあります。

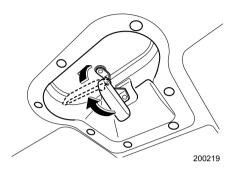
注意

走行するときは
走行中はトランクを完全に閉めてください。開けたまま走行すると車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

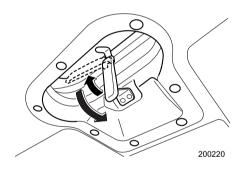
トランクを閉めるときには
荷物や手足（近くのお子さまを含む）を挟まれないように注意してください。周囲にお子さまがいる場合にはとくに注意してください。また、エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。

アドバイス

- トランクの中にキーを置き忘れないようご注意ください。
- トランクルームランプは、トランクを開けると点灯し、閉めると消灯します。
- 長時間開けたままにすると、トランクルームランプが点灯したままとなりバッテリー上がりの原因になります。
- トランクを開けるときは、リヤワイパーが倒れていることを確認してください。立てたままでは、トランクを傷つけます。また、トランクが開いているときにリヤワイパーを作動させないでください。トランクに傷をつける場合があります。

■トランクオープナーキャンセル機構

オープナーキャンセルレバーを矢印の方向に押し上げた後、トランクを閉めると、トランクオープナーレバーでは開けられません。

開けるときは外からキーを使って開けます。

201111

ルーフベンチレーター

●開けるとき

ロックハンドルの下端を後方下側に引いた後、上方へ押し上げ、ロック位置まで押しつけてください。

200219

●閉めるとき

開けるときの逆順序で操作し、確実にロックしてください。

200220

⚠ 注意

- 高速走行時（80 km/h以上）は、安全のため閉じたままでご使用ください。
- 開けて走行する場合は、室内の紙類、小物などの散乱にご注意ください。
- 開閉時は、指などを挟まれないようにご注意ください。
- 危険防止のため、小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- 車から離れるときや洗車するときは、完全に閉じてください。
- 雨、雪のあとや洗車後に開けて走行しますと、室内に水が入ることがありますので、あらかじめ水を拭き取ってください。ウインドゥウォッシャー使用時もご注意ください。
- キャリアなどを取り付けて荷物などをのせる場合は、当たらないように気をつけてください。

シート

正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

⚠ 警告

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆすり「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が充分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

アドバイス

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。

フロントシート

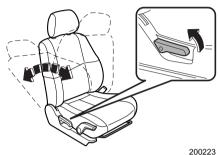
シートのドア側と下部のレバー操作で調整ができます。

⚠ 警 告

調整は、運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。

☆2－24 ページの注意事項もお守りください。

●前後の調整（スライド調整）

レバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200222

⚠ 注 意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

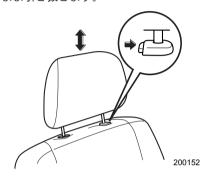
●背当て角度の調整（リクライニング調整）

レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200223

⚠ 注 意

調整する際には、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。

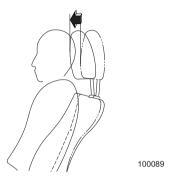
●上下調整（運転席のみ）

レバーを引くたびに上がります。また、押すたびに下がります。

200224

■ヘッドレストの高さ調整

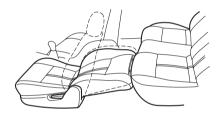
- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

■アクティブヘッドレスト

フロントシートのヘッドレストには、アクティブヘッドレストが装備されています。
この装置は、後方から追突されたとき、前方に少し傾斜するようになっています。
これにより、頭や首を保護し、むち打ち症などを軽減します。
万一の衝突事故に備え、ヘッドレストの乗員保護効果を最大限にするため、ヘッドレストの高さを正しく調整してください。

⚠ 注意

ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。
充分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

■ソフトフラットシート（ワゴン）

シートをフルリクライニングするとリヤシートとつながってソフトフラットになります。

●ソフトフラットにするとき

①車を駐車し、しっかりと駐車ブレーキをかけます。

②ヘッドレストを外します。

③シートを最前位置までスライドさせます。

④背当てをいっぱいまで倒してリヤシートとつなげます。

200225

●戻すとき

逆の手順で行います。

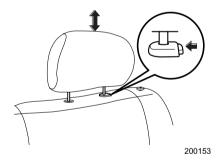
⚠ 警 告

走行中はソフトフラットにして使用しないでください。万一のときシートベルトの効果が得られず重大な傷害につながるおそれがあります。

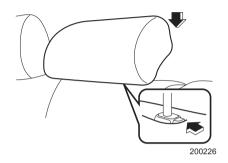
⚠ 注 意

- ソフトフラットから戻すときは背当てを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。背当てを押さえずにレバー操作すると背当てが急に戻り、けがをするおそれがあります。
- ソフトフラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んで、ゆっくりと移動してください。シートを踏み外したり、シートの間に足を挟むなどして、けがをするおそれがあります。
- 助手席および後席に人が乗っている状態では、ソフトフラットにしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

リヤシート（ワゴン）

⚠ 警 告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。

☆2－24 ページの注意事項もお守りください。

■ピローの高さ調整

●左右席用

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

200153

●中央席用

- 上げるときは固定解除ボタンを押したまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。

200226

⚠ 警 告

ピローは確実に取り付けてください。外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ピロー中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

乗員がいないときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■6：4分割リヤシートの背当てを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。
背当ては左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背当てを倒すとき

ピローの横にあるロックノブを引き上げた状態で背当てを倒します。

200154

200155

⚠ 注 意

- チャイルドシートを取り付けているときは、背当てを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背当てを倒すとき、中央席のシートベルトを格納してください。

☆2－39ページ参照

アドバイス

上り坂などで背当てが倒れないときは、手で倒してください。

●背当てを元に戻すとき

背当てを起こし、確実にロックします。

⚠ 警 告

- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

リヤシート（セダン）

■センターアームレスト

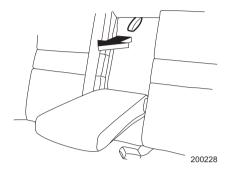
前に倒して使用します。

200227

警 告

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

①最初にシートベルトを装着する。

②次にアームレストを下ろす。

先にアームレストを下ろしてからシートベルトを着用すると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■アームレストスルー

アームレストを引き出します。ストラップを引いてロックを外し、仕切板を倒すとアームレストスルーになります。

200228

200229

警 告

アームレストスルーにしたときお子さまがトランク内に入らないよう気をつけてください。重大な事故につながるおそれがあります。

☆2－20ページ参照

⚠ 注 意

トランク内の荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が車内に飛びだし、けがをすることがあります。
とくに、スキー板などの長いものは注意してください。
アームレストスルーにするときは、仕切板に手や指を挟まないよう注意してください。

アドバイス

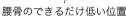
使用しないとき
使用しないときは仕切板を押し上げ確実にロックしてください。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠ 警告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」（2－23 ページ）をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

200136

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
  6歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
  なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

＜選択の目安＞

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～9か月頃まで	4か月～4歳頃まで	4歳～12歳頃まで

運転する前に

⚠ 警告

200364

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。
万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。
- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、充分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき充分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。
(ELR機構)

■3点式シートベルトの着用のしかた

●着用のしかた

①タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

200119

②ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

201005

③正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

200121

●外すとき

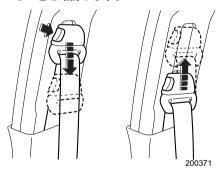
外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。

☆2－36ページ参照

- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
  それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチが ON で運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

200122

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

①上げるときはショルダーアジャスター本体を上に動かします。下げるときはボタンを押しながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
②ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。

200371

⚠ 警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。

☆2－35ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前席乗員をシートに確実に固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルト※に、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。

※ターボ車以外の装備
運転席側

助手席側

> ⚠ **注 意**
>
> **プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。**
> - シートを正しい位置に調整する。
>
> ☆2－23ページ参照
> - シートベルトを正しく着用する。
>
> **次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。**
> - シートベルトを取り外すとき
> - シートベルトを廃棄するとき
> - 廃車するとき

> **アドバイス**
>
> - プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
>   プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
> - プリテンショナー付シートベルトは、SRS エアバッグシステムと同時に作動します。

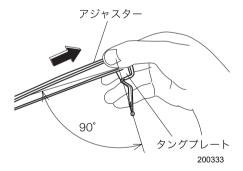
リヤシートベルト

3点式シートベルトが2名分装備されています。中央席は2点式シートベルトが装備されています。ワゴン車の中央席には途中で切り離しのできる3点式シートベルトがメーカーオプションで装備されています。

■外側席用シートベルト

フロントシートベルトと同じ方法で着用します。

☆2－35ページ参照

■中央席用シートベルト

必ず中央席用のシートベルトを使ってください。

●2点式シートベルト

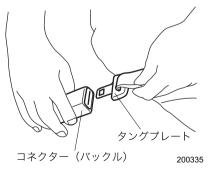
タングプレートとバックルに「CENTER」印があります。

▼着用するとき

①アジャスターを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。

②ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチッ”と音がするまで差し込みます。

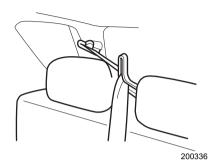
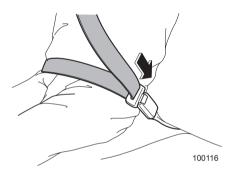
③腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。

▼外すとき

①外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押します。
外したベルトはタングプレートとバックルを結合しておきます。

●3点式シートベルト ✤

バックルに「CENTER」印があります。

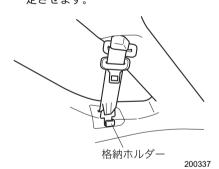
▼着用するとき

①カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出し、コネクター（小さいバックル）とタングプレートをコーションラベルが付いている面に合わせて結合してください。

②シートベルトをピローのガイドに通します。

200336

③フロント3点式シートベルトと同じ要領で着用します。

100116

⚠ 注 意

コネクターを結合しないで使用するとシートベルト本来の機能が発揮されません。必ず結合してから着用してください。

●格納するとき

①バックルの「PRESS」ボタンを押します。

②コネクターの解除ボタンをキーなどを使って押し分離します。

200158

③シートベルトを巻き取り、小さいタングプレート（コネクター）をカーゴルームの格納ホルダーに差し込み固定させます。

200337

⚠ 注 意

- 使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。
- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないように気をつけてください。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持ってください。急に巻き取らせないよう気をつけてください。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。
チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるため、チャイルドシート取り付け時に便利です。

〔ISO-FIX 方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO-FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2－42 ページの「ISO-FIX固定バー および テザーアンカー」をご覧ください。〕

⚠ 警 告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

①チャイルドシート（別売／スバル純正ISO-FIX方式を除く）を取り付けます。

②チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのピローを取り外します。ただし、チャイルドシートを中央席に取り付ける場合は、ピローを取り外さず、シートベルトをピローのガイドに確実に通してください。

③シートベルトを引き出しチャイルドシートにシートベルトを通して、タングをバックルに確実に差し込みます。

④肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）

⑤チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。

⑥チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

①バックルの「PRESS」ボタンを押して、シートベルトを外します。

②シートベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除します。

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。

ISO-FIX固定バー および テザーアンカー

リヤシートの左右席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正 ISO-FIX チャイルドシートを固定するための専用の ISO-FIX 固定バーおよびテザーアンカーが装備されております。

- ISO-FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO-FIXチャイルドシートは、専用の ISO-FIX 固定バーとテザーアンカーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。

⚠ 警 告

- ISO-FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートを取り付ける場合には、必ずISO-FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  （詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

■ISO-FIX固定バー

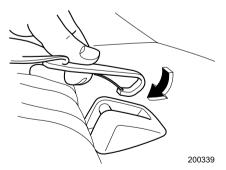
背当てとシートクッションのすき間にあります。

200161

ISO-FIX 固定バーが装備されていることを示すタグが背当てについています。

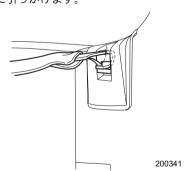
200977

■テザーアンカー

●セダン

リヤシート後ろ側のリヤシェルフ左右にあります。

200916

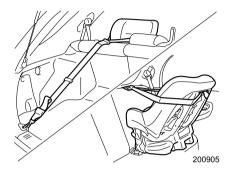
チャイルドシートのフックをテザーアンカーに引っかけます。

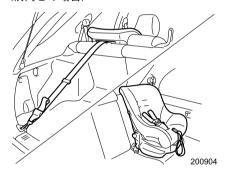
200339

●ワゴン

カーゴルーム後ろ側の左右にあるカバーを取り外すとあります。カバーにはテザーアンカーを示すマークがあります。

201098

チャイルドシートのフックをテザーアンカーに引っかけます。

200341

■スバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）を使用する場合の取り付けかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

①ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を取り付ける側のリヤシートのピローを取り外します。（ワゴン）

②背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。

③ベースシートを ISO-FIX 固定バーに確実に取り付けます。

④ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。

⑤ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽く上下左右にゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。

⑥ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。

⑦ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。

⑧ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。

〈後ろ向きの場合〉

200905

〈前向きの場合〉

200904

⚠ 警告

- ISO-FIX チャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートを取り付ける場合は、必ずISO-FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。
  セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  （詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

⚠ 注意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部、頭部への衝撃をやわらげる装置です。

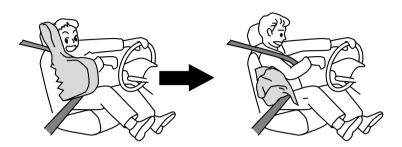
運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

200123

助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

200124

SRSサイドエアバッグ

運転席、助手席各シートの背当てに格納され、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみます。
SRSサイドエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

200072

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

シートベルトは必ず正しく着用してください

⚠ 警告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2－32ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢では SRS エアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2－23ページ参照

乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

⚠ 警告

膝の上に物をかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルの SRS エアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。

200366

- 6歳未満のお子さまはスバル純正チャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
  チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。
  なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。

200127

- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200367

- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSサイドエアバッグ付車に関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- フロントシート背当ての SRS サイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200368

- お子さまなどに後席からフロントシートの背当てを抱えこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200369

- フロントシート背当ての SRS サイドエアバッグ格納部を強打したり、衝撃を加えないでください。正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スバル純正の SRS サイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。
  使用する場合には添付されている使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- SRSサイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けないでください。SRS サイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200370

お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとってもっとも安全な乗車位置です。
- お子さまを SRS エアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。

200366

100234

- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。スバルチャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
  チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。

200127

SRSエアバッグが作動すると

⚠ 警告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。
  排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRSサイドエアバッグは膨らんだ後、数秒後にしぼみます。
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
  ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。皮ふの弱いかたなどは、まれに皮ふなどを刺激する場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

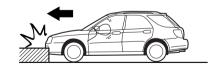
⚠ 警告

- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守っていただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。
  車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造すると SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしないでください。
  シートに内蔵されている SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- SRSサイドエアバッグ装着車では、センターピラーなどのセンサー格納部を分解、修理しないでください。
  衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
  分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
  衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
  無線機の電波などは SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
  SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

＜作動するとき＞

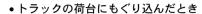
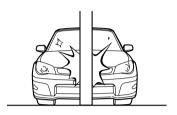
■次のようなときに作動します

- 20〜30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

200342

●走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

- 深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき

200343

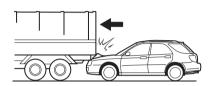
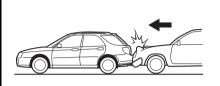
- 縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

200344

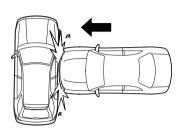
＜作動しにくいとき＞

■次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

- 電柱などに衝突したとき

200890

- トラックの荷台にもぐり込んだとき

200346

- 斜め前方への衝突のとき

200347

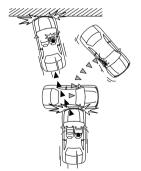
●また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません

- 後ろから衝突されたとき

200348

- 横方向から衝突されたとき

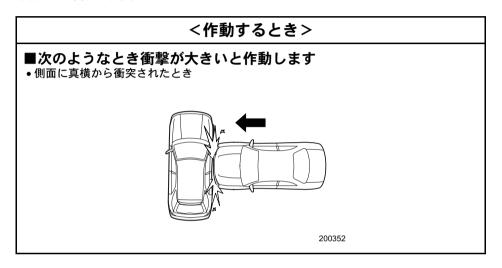
200349

- 横転や転覆したとき

200891

<作動しないとき>

■次のようなときは作動しません

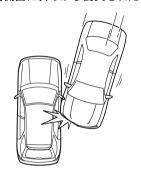
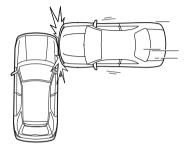
- 一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

200351

SRSサイドエアバッグが作動するとき、しないとき

SRSサイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に頭部と胸部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSサイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRSサイドエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

＜作動するとき＞

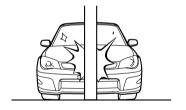
■次のようなとき衝撃が大きいと作動します

- 側面に真横から衝突されたとき

＜作動しにくいとき＞

■次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります

衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグは作動しにくくなります。

- 車両側面に斜めから衝突されたとき

200353

- 客室以外に側面から衝突されたとき

200354

- 電柱などに衝突したとき

200890

- 側面にバイクが真横から衝突したとき

200892

次ページへ ▶

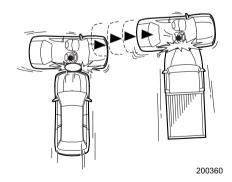
▶ 前ページより

■また、次のような場合はSRSサイドエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません

- 横転や転覆したとき

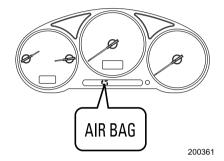
200891

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき

200358

- 後ろから衝突されたとき

＜作動しないとき＞

■次のようなときは作動しません

- 一度SRSサイドエアバッグが作動した後の衝突

200360

IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席、サイドの各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯すれば正常です。

⚠ 警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

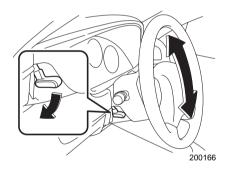
- エンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

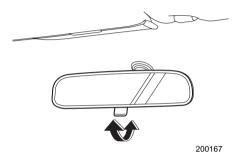
ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

ハンドルの位置の調整ができます

⚠ 警告

調整は必ず走行前に
- 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不充分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながることがあります。

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整します。
①チルトレバーを押し下げます。
②ハンドル位置を合わせます。
③チルトレバーを引き上げます。
④ハンドルが固定されたことを確かめてください。

200166

ルームミラー

■防眩ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できるように調整します。
通常はレバーを前方の位置にして使います。
夜間走行時、後続車のヘッドライトランプがまぶしいときは、レバーを引きます。ライトの反射を弱くすることができます。

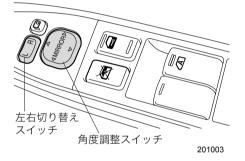
200167

⚠ 注意

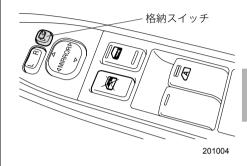
調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

⚠ 注 意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。

■電動リモコンドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

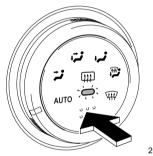
①調整するミラーを選びます。
　左右切り替えスイッチを調整するミラー側に押して切り替えます。
　「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー
②「角度調整スイッチ」を上下左右に動かして後方視界が充分確認できる位置に調整します。

201003

■電動格納式ミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。
スイッチを押し込むと格納します。
もう一度押すと元に戻ります。

201004

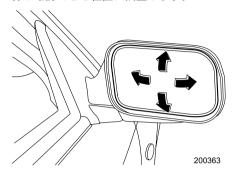
アドバイス

- 寒いときには、作動の途中で止まることがあります。もう一度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇔元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手動で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

■ヒーテッドドアミラー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。

ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。リヤウインドゥデフォッガーに連動して作動します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

☆3－15ページ参照

200362

アドバイス

消費電力が大きいので長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。

■マニュアルドアミラー

鏡面の上下部、左右部を指で押し、後方視界が確認できる位置に調整します。

200363

格納するときは、手で押して倒してください。

⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。

3 運　転　す　る　と　き

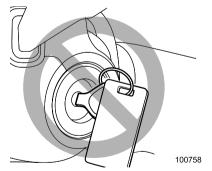
IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

■各位置の働き

300078

LOCK (ロック) 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクトレバーが P にあるときは、この位置は使えません
Acc (アクセサリー) 2	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON (オン) 3	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート) 4	エンジンを始動する位置

⚠ 警 告

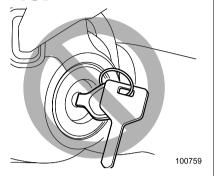
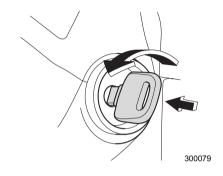
走行中LOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。
  長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーをPにしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」(キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに1と刻印)でキーを押し込んでからLOCKに回してください。

アドバイス

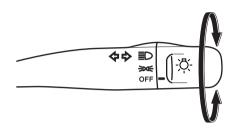
ルームランプを中間（ドア連動）位置にしている場合、キーを抜くと一旦点灯し、徐々に消灯します。
☆4－54ページ参照

■キー抜き忘れ警報

（キーを抜き忘れるとブザーが鳴ります）
キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、エンジンキー照明が点滅します。(照明の点滅は一部車種除く)
ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

アドバイス

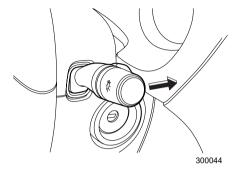
車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

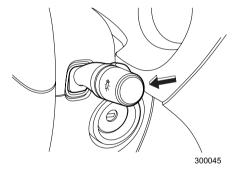
エンジンスイッチの周辺が点灯します。
運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も 5 秒間点灯し、その後消灯します。また、キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けると点滅します。ただし、エンジンスイッチが ON のときは点滅しません。

ライティングスイッチ

エンジンスイッチが ON のときスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。

300080

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	消灯	
(車幅灯マーク)	消灯	点灯
(ヘッドランプマーク)	点灯	

アドバイス

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。
バッテリー上がりを起こします。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。

300044

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプの上向き、下向きが同時に点灯します。
ライティングスイッチがOFFでも使えます。

300045

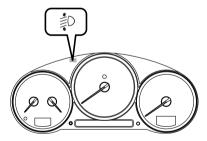
自動光軸調整機構（オートヘッドランプレベラー）

下向きヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。
ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者及び積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

⚠ 警告

HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

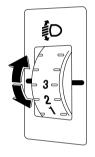
エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯するのが正常です。
エンジン回転中、自動光軸調整機構（オートヘッドランプレベラー）の電子制御システムに異常があると点灯します。

300745

> ⚠ **注 意**
>
> **オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。**

> **アドバイス**
>
> - HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
> - バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
> - HIDランプは点灯後、安定するまでに若干明るさや色が変化することがあります。
> - HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整機構がついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。
エンジンスイッチが ON のとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きが下側になります。

300747

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。

セダン

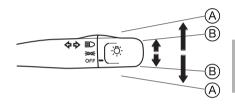
ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	有※
2	1名	0名	有※
3	—	—	—

※最大許容重量まで積載した場合

ワゴン

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	有※
2	1名	0名	有※
3	—	—	—

※最大許容重量まで積載した場合

アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

エンジンスイッチが ON のとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーは自動的に元の中立位置に戻り、方向指示器とメーター内の表示灯が消灯します。ハンドルを戻してもレバーが戻らないときは手で戻してください。
☆3－30ページ参照

300081

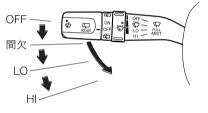
アドバイス

車線変更の合図をするには
レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。（Ⓑ位置）
手を放すとレバーは元の位置に戻ります。

運転するとき

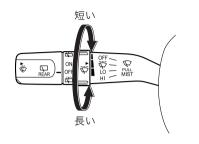
イルミネーションコントロールスイッチ

300222

調整リングを回すことにより 5 段階にメーター内の照明の明るさを調整します。
車内外の明るさに応じて調整してください。

ワイパー＆ウォッシャースイッチ

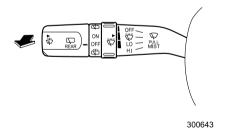
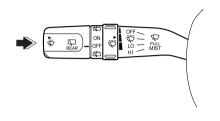
エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

300641

●間欠作動の時間調整

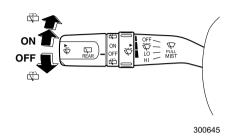
300642

レバーを1段押し下げます。
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は2秒から16秒の間で調整できます。
リングを上に回すと作動間隔が短くなり、下に回すと長くなります。

●ワイパーを手動で使いたいときには（MIST）

レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を放すと停止します。

300643

●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。

300644

> **アドバイス**
>
> **ワイパーが連動します。**
> スイッチを押すとワイパーが1～2回動きます。

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。

(上側)	ウォッシャー液が噴射し、手を放すとONに戻ります。
ON	連続で作動
OFF	停止
(下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を放すとOFFに戻ります。

アドバイス

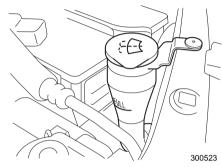
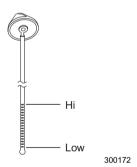
- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残りができるときにはブレードのラバーを交換してください。

☆7−7ページ参照

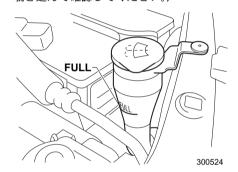
- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。
  ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
  - ・フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを（デフロスター）にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
  - ・リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3−14、3−15、4−4ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチを OFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にワイパーが止まることがあります。
  その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

■ウォッシャータンク

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。
ボンネットを開け、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。フロントとリヤの共用になっています。（リヤワイパーなし車はフロントのみ）

300523

キャップを外し、キャップに付いているレベルゲージで液量を点検します。

300172

レベルゲージ下部の穴（レベル）にウォッシャー液の膜が付着していることを確認してください。
付着していない場合、ウォッシャー液をレベルゲージのHiの位置、あるいは注入口のFULL位置まで補給してください。
補給するときは、注入口の FULL 位置以上ウォッシャー液を入れないでください。
（FULL 位置は、注水ホースのほぼ中央にあり、エンジン側に記載されています。リザーバータンクの脇から確認するか、注水口を覗き込んで確認してください。）

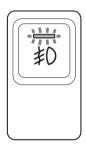
⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4－4ページ参照

- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5－3ページ参照

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないよう注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

フォグランプスイッチ

■フロントフォグランプスイッチ

エンジンスイッチが ON でライティングスイッチが [車幅灯マーク] または [ヘッドランプマーク] のとき、スイッチを押すとフロントフォグランプが点灯します。
フロントフォグランプ点灯中はスイッチ内のランプが点灯します。
フロントフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを押してください。
消灯時はスイッチ内のランプが消灯します。

300256

■リヤフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONで、フロントフォグランプまたはヘッドランプが点灯しているとき、スイッチを押すとリヤフォグランプが点灯します。
リヤフォグランプ点灯中はスイッチ内のランプが点灯します。
リヤフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを押してください。
消灯時はスイッチ内のランプが消灯します。

300228

アドバイス

- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、以下の操作を行うとリヤフォグランプが消灯します。
  - ・エンジンスイッチOFF
  - ・ライティングスイッチ [車幅灯マーク]（リヤフォグランプのみ点灯時）またはOFF
- フロントフォグランプスイッチOFF（ライティングスイッチ [車幅灯マーク] 時）
- 再度リヤフォグランプを点灯させるには、フロントフォグランプまたはヘッドランプを点灯させ、リヤフォグランプスイッチを押してください。

次ページへ ▶

▶ 前ページより

- フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計されていますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車に迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときにだけ使用してください。
- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車に迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

フロントワイパーデアイサースイッチ

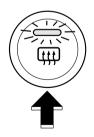
エンジンスイッチがONのとき使用できます。
フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。
- スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

300229

アドバイス

ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので
- 必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。

リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り)スイッチ

エンジンスイッチがONのとき使用できます。
スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。
リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。(表示灯が消灯します)

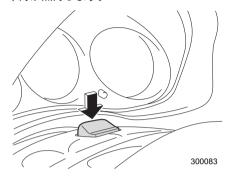
オートエアコン付車

マニュアルエアコン付車

アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒーテッドドアミラー装備車は、リヤウインドゥデフォッガースイッチを押すと、ヒーテッドドアミラーも連動して作動します。

ハザードランプ(非常点滅灯)スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。
やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。

300082

アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パーキングランプ(駐車灯)スイッチ

夜間、路上に一時駐車するとき使用します。エンジンスイッチの位置に関係なく、コラムカバー上面のスイッチを押すと前後の駐車灯が点灯します。

300083

アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の駐車にご利用ください。

インタークーラーウォータースプレイ

暑い日に、気温上昇によるインタークーラーの冷却効果が低下したとき、インタークーラーに水を噴射することにより、冷却性能を維持することができます。

■ウォータースプレイの作動

●マニュアルモード

マニュアルモードスイッチを押すと、約2秒間噴射します。

300325

●AUTOモード

スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、水温、エンジン回転などの作動条件がそろったとき自動的に約2秒間噴射します。

作動条件が連続した場合、2秒間噴射⇔2秒間停止のサイクルを繰り返します。

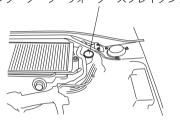
AUTO モードを解除するときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

300663

アドバイス

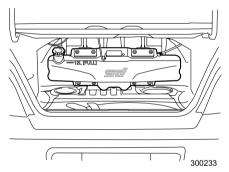
- インタークーラーウォータースプレイ液の残量が少なくなると警告灯が点灯します。点灯している間、AUTOモードでは噴射しません。また、マニュアルモードでは噴射可能ですが、早めに給水してください。
  水がない状態または水が凍結した状態でスイッチを押し続けるとポンプの故障の原因となるおそれがあります。

☆3－39ページ参照

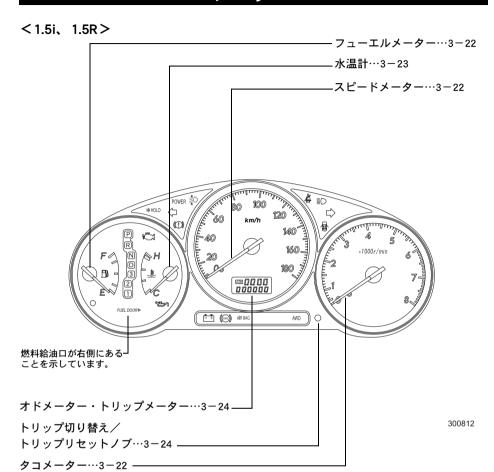
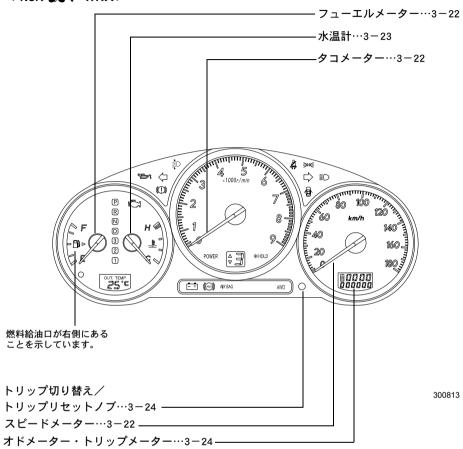
- AUTOモードスイッチON時においてもマニュアルモードが優先されます。

●水の補充

インタークーラーウォータースプレイタンクは以下の位置にあります。

- インタークーラー右側（STI）
- トランク内（STI spec C）

〈STI〉

〈STI spec C〉

アドバイス

- 必ず水を補給してください。
- 凍結によるタンクの破損を防ぐため、寒冷時、使用しない場合においての水量は半分程度としてください。
- タンクの容量：
  4.2 ℓ（STI）
  12 ℓ（STI spec C）

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

＜1.5i、 1.5R＞

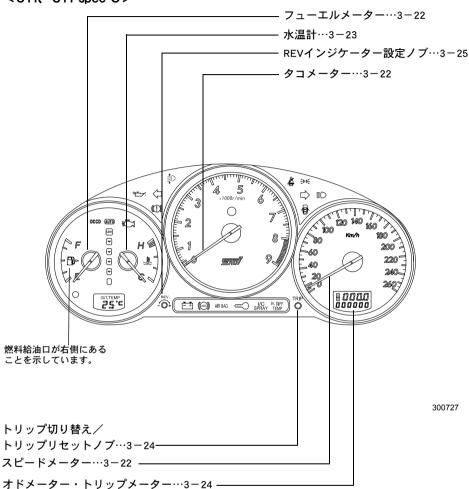
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜1.5R 、WRX＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

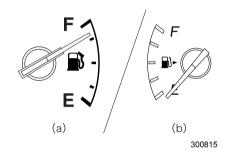
IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

＜STI、 STI spec C＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

■スピードメーター
車の走行速度を示します。

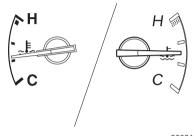
アドバイス
速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター(エンジン回転計)
毎分のエンジン回転数を示します。

注 意
指針がレッドゾーン(エンジンの許容回転数を超えている範囲)に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス
- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター(燃料計)
燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。
- エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。(下図a)
- エンジンスイッチをOFFにすると針が下がります。エンジンスイッチをONにすると燃料の残量を示します。(下図b)

☆2－15ページ参照

注 意
燃料を補給するときは、必ずエンジンを止めて行ってください。
☆1－24ページ参照

アドバイス

- エンジンスイッチをOFFにしているとき、温度変化や振動で指針が若干変わる場合があります。
- 燃料を補給後エンジンスイッチを ON にしてから指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチが ON のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。燃料補給時には、安全のため必ずエンジンを止めてください。
- 燃料を補給するときは、約15 ℓ 以上給油しないと指針が動きません。（STI車のみ）

■水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。
冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。

⚠ 注 意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。
☆6－21ページ参照

アドバイス

エンジンスイッチがOFFのときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。
「H」：高温（HOT）
「C」：低温（COLD）
を示しています。

■オドメーター・トリップメーター（積算距離計・区間距離計）

●オドメーター（下段）

走行した総距離をkmで表示します。

300088

●トリップメーター（上段）

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999 kmです。0.0 km～999.9 kmでは0.1 km単位、1000 km～9999 kmでは1 km単位で積算します。

300089

アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オド／トリップメーターを表示します。

●トリップA、B切り替え

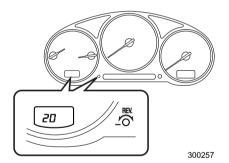
トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

トリップメーターA→トリップメーターB
↑______________|

●トリップメーターA・Bを0に戻すとき

トリップAまたは、トリップBのリセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

アドバイス

液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

■ REV インジケーター設定ノブ

REVインジケーターの作動設定、または、指針初期作動の設定（STIのみ）を行う場合に使用します。

アドバイス

REVインジケーターは任意に設定したエンジン回転数になったことをランプ（インジケーター）の点灯、またはブザーの吹鳴によりドライバーに知らせます。

●設定手順

①REVインジケーター設定ノブを左右どちらか一方に回すとブザーが鳴り設定状態となります。

②REV インジケーター設定ノブを回し、回転数を設定します。

300257

- 左（－）に回す：100 rpmずつ減
- 右（＋）に回す：100 rpmずつ増

ノブを回し続けると早送りします。
同時にタコメーターの指針が設定回転数を示します。
（タコメーターの指示は参考です）

また設定時ノブ操作が約3秒間ない場合③へ自動で移行します。

〈エンジン回転数の設定範囲〉
2000～8000 rpmの間、100 rpm単位で設定ができます。
液晶パネルの表示は次のようになります。

設定回転(rpm)	0	2000	2100	～	7900	8000
液晶表示	00	20	21		79	80

③REV インジケーター設定ノブを回し、ブザー吹鳴の有無を設定します。
- 右（＋）に回す：ブザー吹鳴ON。ブザーとインジケーターで知らせます。（液晶表示：On）
- 左（－）に回す：ブザー吹鳴OFF。インジケーターのみで知らせます。（液晶表示：－－）

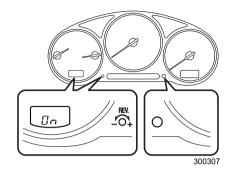
設定後ノブ操作が約3秒間ない場合ブザーが1回吹鳴して設定を終了し、外気温表示に戻ります。

●**設定の解除**

設定回転数を“0”にするとブザーインジケーターともにOFFします。

アドバイス

- 設定中、REV インジケーターは作動しません。
- 設定回転数を“0”にすると設定は終了します。
- 設定途中でエンジンスイッチを OFF にしたり走行を始めると設定は終了します。
- 走行中の設定はできません。

■指針初期作動

レッドルミネセントメーターとホワイトルミネセントメーターは、エンジンスイッチをONに回すとメーターの4つの指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(STI spec Cを除く)

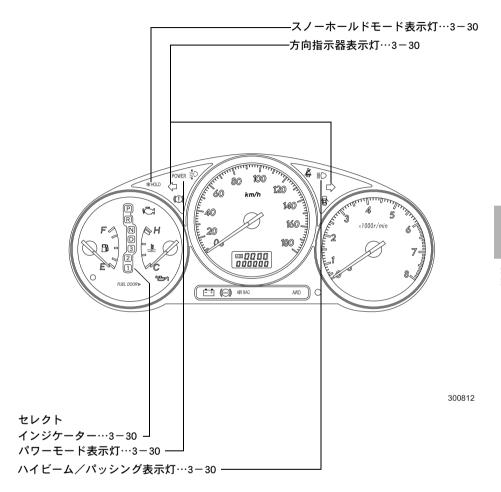
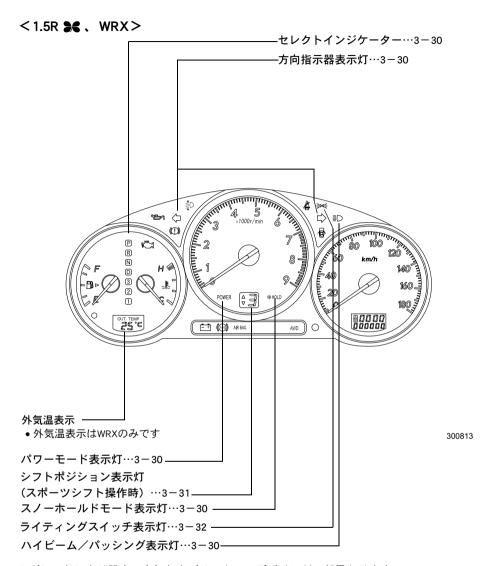
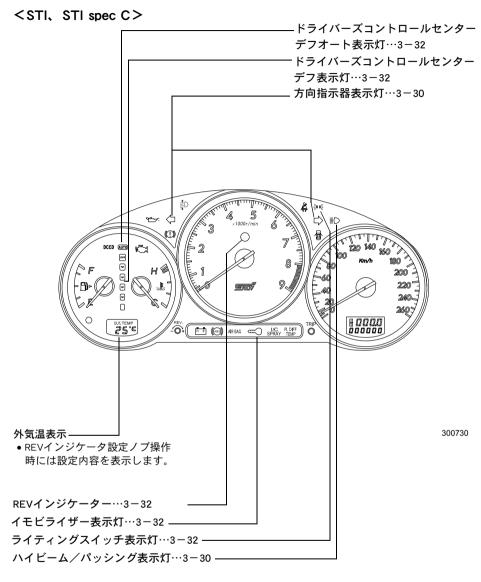
●**設定方法**

STI は指針初期作動を以下の方法で設定または解除することができます。

①エンジンスイッチが ON 位置のとき、REVインジケーター設定ノブを左右どちらかに回したまま、トリップ切り替え/トリップメーターリセットノブを押すと設定、または解除できる状態になります。
このときブザーが鳴り、外気温表示を初期作動設定表示に切り替えます。初期作動マーク と「ON」または「−−」と表示をします。

②トリップ切り替え/トリップメーターリセットノブを押すごとに設定の切り替えができます。

「On」　：作動あり
「−−」　：作動なし

③REVインジケーター設定ノブを戻すとブザーが鳴り、作動の設定が完了します。
3秒後に外気温表示に戻ります。

アドバイス

バッテリー端子が外され、再度付けられたときなどは初期作動ありになります。

表　示　灯

＜1.5i、 1.5R＞

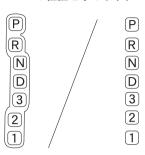
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

＜1.5R 、WRX＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<STI、STI spec C>

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

■セレクトインジケーター（オートマチック車の装備）

セレクトレバーの位置を示します。

☆3－45ページ参照

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。

アドバイス

方向指示器の電球やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なった電球を使うと点滅の早さが異常になります。すみやかに点検し、異常のある電球やヒューズを交換してください。

☆7－15ページ参照

■パワーモード表示灯（オートマチック車の装備）

POWER

パワーモードを選択したときに点灯します。

☆3－55ページ参照

⚠ 注 意

パワーモード表示灯が点滅を繰り返したときは、オートマチック制御システムの異常を知らせています。すみやかにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

パワーモード表示灯はエンジンスイッチをONにしたとき点灯し、エンジンが始動してから約2秒後に消灯します。

■スノーホールドモード表示灯（オートマチック車の装備）

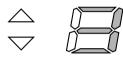
❄HOLD

スノーホールドモードを選択したときに点灯します。

☆3－55ページ参照

■ハイビーム／パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きのとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。

■シフトポジション表示灯（スポーツシフト装備車）

スポーツシフトでマニュアルモード選択時、現在のシフトポジションをデジタル表示します。
また、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であるかを示す⇕印が点灯します。

300244

☆3－54ページ参照

■外気温表示

外気温度を表示します。

300245

表示温度範囲は－30 ℃～50 ℃です。
（REV インジケーター装備車では設定内容も表示します。☆3－25ページ参照）

アドバイス

- 下記の場合、エンジンの熱や路面の照り返しにより、外気温度を正しく表示しないことがあります。
  - ・停車時
  - ・渋滞時
  - ・低速走行時
  - ・走行後の再始動時
- 液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

■ドライバーズコントロールセンターデフオート表示灯

電子制御ドライバーズコントロールセンターデフ（オートモード）付車は AUTO 制御中、AUTO表示灯が点灯します。

☆3－59ページ参照

■ドライバーズコントロールセンターデフ表示灯

イニシャルLSD トルクの目安が表示されます。

300330

☆3－59ページ参照

■REVインジケーター

設定回転を超えている間点灯します。

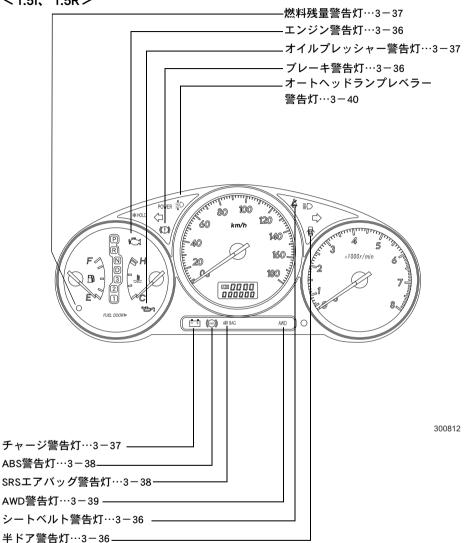
300338

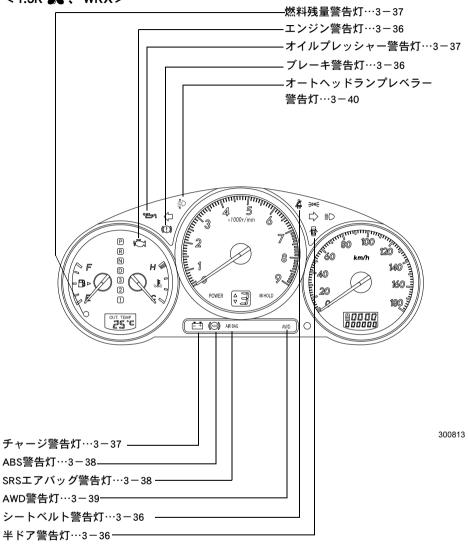
☆3－25ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

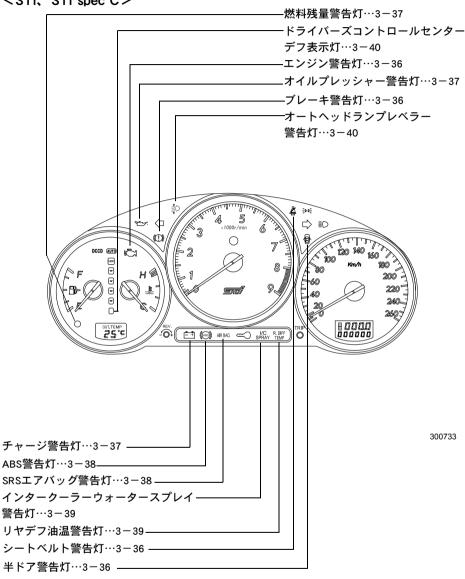
ライティングスイッチが
または 位置時に点灯します。

■イモビライザー表示灯

通常は点滅しています。
エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。

⚠ 注 意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。
☆2－3ページ参照

警　告　灯

＜1.5i、 1.5R＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

＜1.5R 、WRX＞

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

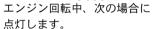
IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

<STI、STI spec C>

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。

> **⚠ 注 意**
>
> **点灯したときは**
>
> エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
>
> 高速走行を避け、直ちにスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- EBD（エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション）の電子制御システムに異常があるとき

  EBD の電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3－63ページ参照

> **⚠ 注 意**
>
> - エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し点検を受けてください。
> - ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、ABS（アンチロックブレーキシステム）に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
>
>   直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯

エンジンスイッチが ON のとき、運転者がシートベルトを装着していないときに点灯します。

☆2－32ページ参照

■半ドア警告灯

エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。

リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。

> **⚠ 注 意**
>
> 警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量が下記の残量以下になると点灯します。

約9 ℓ 以下（WRX、STI）

約7 ℓ 以下（1.5i、1.5R、STI spec C）

アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

注 意

点灯したときは

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。

オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

注 意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店で点検を受けてください。

■ABS警告灯

エンジンスイッチを ON にしたとき約2秒間点灯し、消灯します。
ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。
☆3－62ページ参照

⚠ 注 意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。
- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■SRSエアバッグ警告灯

AIR BAG

エンジンスイッチを ON にしたときから約6秒間点灯し、消灯するのが正常です。
運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装備車）、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- **エンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき**
- **走行中に点灯したとき**

⚠ 注 意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

■AWD警告灯

AWD

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後消灯します。

●ターボ車以外

スペアタイヤに交換するため AWD を解除し、2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

☆3－58ページ参照

●ターボ車

異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

⚠ 注 意

- AWD警告灯が点滅したまま走行を続けると駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合にはすみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■インタークーラーウォータースプレイ残量警告灯

I/C SPRAY

インタークーラーウォータースプレイのタンク内水量が少なくなると点灯します。

☆3－18ページ参照

■リヤデフ油温警告灯

R. DIFF TEMP

リヤデフの油温が上昇したときに点灯します。点灯するとドライバーズコントロールセンターデフが作動しなくなります。

点灯が予想される条件

- オフロードやラリーなどのシビアな走行をした場合
- 急な登り坂をけん引走行するなどリヤデフに高負荷がかかった場合
- タイヤが適正空気圧になっていない場合
- 前後で異なる銘柄、異なるサイズのタイヤを装着した場合
- 応急用スペアタイヤを装着し、高速走行、長時間走行した場合

点灯した場合はすみやかにリヤデフオイルを交換してください。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

⚠ 注 意

- 警告灯が点灯したときは、直ちに安全な場所に停車してリヤデフを冷やし、上記の点灯が予想される条件を点検して必要な処置を行ってください。
- 点灯したまま走行を続けると、駆動系損傷の原因となります。
- リヤデフが冷えた状態や、上記の点灯が予想される条件を取り除いても点灯している場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ドライバーズコントロールセンターデフ警告灯

ドライバーズコントロールセンターデフ故障時（コントロールユニット、センサー類、断線、ショートなど）イニシャルLSDトルク最小（0）位置（緑▯）のランプが1秒周期で点滅します。

⚠ 注 意

点滅したまま走行を続けると、駆動系損傷の原因となります。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約3秒間点灯し、消灯します。
エンジン回転中、自動光軸調整機構（オートヘッドランプレベラー）の電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

エンジンをかける前に安全を確かめます。

⚠ 警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けないでください。
  スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。

②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。

②クラッチペダルをいっぱいに踏みます。

③エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

アドバイス

<クラッチスタートシステム>
マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。

②セレクトレバーが[P]であることを確認します。（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。

②エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

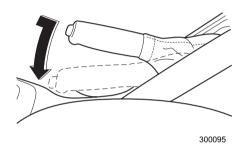
アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチを START に回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチを START に回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を放してください。
  それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドゥデフォッガースイッチを OFF にしたほうが、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時等、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

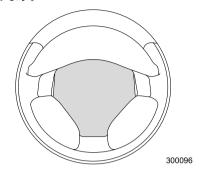
アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

■戻すとき
レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。

300095

⚠ 注 意

駐車するとき、走行するとき
- 駐車するときは車が動き出さないように確実にレバーを引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。

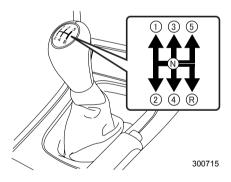
300096

アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

マニュアル車の運転

チェンジレバー

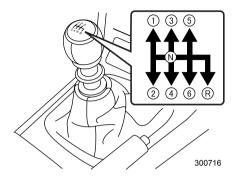
⚠ 注 意

- “R”に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってからゆっくりと入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

アドバイス

変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

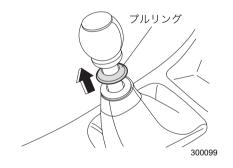
変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

300715

⚠ 注 意

5 速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5”→“R”へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。

300716

“R”に入れるときはプルリングを引き上げたままレバーを操作してください。
“R”に入れるとブザーが鳴ります。(spec C は除く)
レバーを“N”に戻すと、プルリングは元の位置に戻ります。

300099

⚠ 注 意

レバーを“N”に戻してもプルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

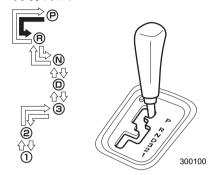
P（パーキング）	駐車およびエンジン始動位置	駐車のときは必ず駐車ブレーキをかけてPにしてください
R（リバース）	後退位置	ブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。
N（ニュートラル）	中立位置	
D（ドライブ）	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇔2速⇔3速⇔4速を自動的に変速します。
3（サード）	登・降坂路走行位置	エンジンブレーキが必要なとき、登り坂走行などで使います。1速⇔2速⇔3速に自動的に変速します。
2（セカンド）	登・降坂路走行位置	さらに強くエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、湿った砂地などで使います。1速⇔2速に自動的に変速します。
1（ファースト）	登・降坂路走行位置	強力なエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、砂地、泥道からの脱出などに使います。1速に固定されます。

☆1－10ページ参照

⚠ 警告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

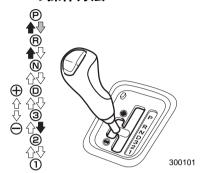
⚠ 注意

- Pでエンジンをかけてください。Nでもエンジンはかかりますが、安全のためPでかけてください。
- P、Rに入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 切り返しのとき、D→R、R→Dと何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルを確実に踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- Rに入れるとブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐにRからNに戻す習慣をつけてください。

アドバイス

- オートマチック車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 通常Dで走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。
  - ・Nコントロール
    (1.5RおよびWRXの機能)
    このトランスミッションには「Nコントロール」機能が装備されています。ノーマルモードもしくはパワーモード選択時（1.5Rはノーマルモードのみ)、車が完全に停止した後、セレクトレバーがDのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
    「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を放してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。
  - ・登坂制御
    登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。
  - ・降坂制御
    急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。

■ゲート式セレクトレバーの操作方法

レバーは、各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
⇩	そのままゲートに沿って動かします。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り替えられません。

■スポーツシフト付セレクトレバーの操作方法

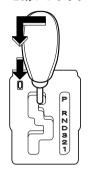
レバーは、各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
⇩	ボタンを押さずに操作します。
	ボタンを押したまま操作します。

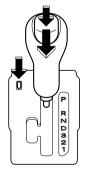
アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Pのときは、レバーを手前側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもPから他の位置に切り替えられません。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- Pからのレバー操作は、エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーをPから他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
  (P以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- Nでエンジンスイッチを OFF にした場合、しばらくするとレバーをPに操作することができなくなる場合がありますので直ちにPへ操作してください。
  もし、セレクトレバーがNからPに操作できないときは、エンジンスイッチをON にしてからPへ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーをPへ操作してください。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れ等で、セレクトレバーをPから動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

スポーツシフト装備車以外：
ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。

スポーツシフト装備車：
ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンとセレクトレバーボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転手順

■エンジンをかける前に

①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2－23ページ参照

②アクセルペダルの位置を右足で確認します。

③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注 意

300102

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。（踏み間違いは事故につながるおそれがあります。）

■エンジン始動

①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。

②セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注 意

[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏みます。（アクセルペダルは踏まないこと）

④エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

①ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

⚠ 警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

②セレクトレバーをD(前進)またはR(後退)に入れます。
③セレクトレバーの位置を確認します。
④駐車ブレーキレバーを戻します。
⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

⚠ 注意

- **エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ(車が動きだす)現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。**

☆1－10ページ参照

- **後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。**

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し
①駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを放し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
②車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：

Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1－10ページ参照

上り坂では：

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを3、2、1にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジンブレーキを併用してください。

☆1－17ページ参照

急な下り坂では：
2または1に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。

⚠ 警 告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速時、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■駐車

①車を完全に止めます。

⚠ 注 意

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

②ブレーキペダルを踏んだままの状態で駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
③セレクトレバーをPに入れます。
セレクトレバーがPのときは車が動き出す心配がなくより安全です。
④エンジンを止めます。
☆1−20ページ参照

⚠ 注 意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPに入れ、エンジンを止めてください。

■停車

①[D]のままブレーキペダルを確実に踏みます。

⚠ 注 意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で[P] [N]以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

②必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
③長時間停車するときは[P]にします。
④停車後、再発進するときは、セレクトレバーが[D]にあることを確認して発進します。

⚠ 注 意

- **空吹かしをしないでください。**
  急発進の原因となります。
- **停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。**
- **急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり車が後退することがあります。**
  ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

アドバイス

1.5RおよびWRXには、「Nコントロール」機能が装備されています
[D]でノーマルモードもしくはパワーモード選択時（1.5Rはノーマルモードのみ）、車が完全に停止した後、セレクトレバーが[D]のままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
再発進時はブレーキペダルから足を放してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）かかります。
アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

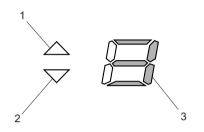
スポーツシフト

■マニュアルモード

セレクトレバーを D からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。

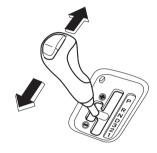
300336

⚠ 注 意

スポーツシフト操作時は以下の注意をよくお読みください。

- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より低い場合、また高い場合、オートマチックトランスミッション保護のため、ピーピーピーとブザーが鳴り、シフト表示は“－”と表示されます。マニュアルゲートから D にレバーを戻してください。
- マニュアルモードでは自動的にシフトアップしません。その時の道路状況に合わせて、エンジン回転がレッドゾーンに入らないように適切にシフトチェンジしてください。また、エンジン回転数が規定の回転数に達すると燃料カットが働きます。
  シフトアップ操作をしてください。
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ピピ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- セレクトレバーまたはシフトスイッチをすばやく2回操作すると、ギヤを1段飛びこします。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは 1 速になります。
- マニュアルモードでは、スノーホールドモードスイッチを ON にしてもマニュアルモードが優先されます。スノーホールドモードを使用する場合、マニュアルゲートから D にレバーを戻してください。

■シフトポジション表示灯

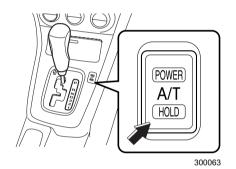
マニュアルモードが選択されるとメーター内の表示部に現在のギヤ位置が数字で表示されます。
シフトアップが可能な場合は数字の横に"▲"、シフトダウンが可能な場合は数字の横に"▼"が表示されます。

①シフトアップ可能表示灯
②シフトダウン可能表示灯
③変速ギヤ表示

●シフトアップ、ダウン変速可否表示

表示	変速の可否
▲ 点灯	シフトアップ可能
▼ 点灯	シフトダウン可能
▲▼点灯	シフトアップ・ダウン可能
△▽消灯	シフトアップ・ダウン不可

■シフト操作

●セレクトレバー

1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから D に移動させます。

スノーホールドモードスイッチ

セレクトレバーが2・3・Dのときスイッチを押すと2速からの発進となるため、雪道など滑りやすい路面ではなめらかに発進できます。
スイッチをONにしたとき、変速は次のようになります。

セレクトレバー	変速
D	2速⇔3速⇔4速
3	2速⇔3速 発進時、極低速時は 2速になります。
2	2速固定

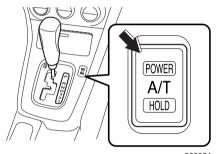
300063

アドバイス

- セレクトレバーがどの位置にあってもスイッチは押せますが、機能が働くのは2・3・Dのときだけです。
- スイッチを押すと、スノーホールドモードになり、メーター内の「HOLD」表示灯が点灯します。

☆3－30ページ参照

パワーモードスイッチ

運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、パワーモード）を選択するスイッチです。

●ノーマルモードとは

燃費など経済性を重視したモードです。

●パワーモードとは

加速など走りを重視した走行モードです。
パワーモードでは変速点が高速側にセットされるためエンジン回転が高く保たれ、パワフルな走行ができます。

300064

アドバイス

スイッチが押されていないときは、「ノーマルモード」です。
スイッチを押すと「パワーモード」になり、メーター内の「POWER」表示灯が点灯します

☆3－30ページ参照

AWD※車の運転

運転するとき

※AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
  やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
  この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
  カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では充分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

取り扱いについて

⚠ 警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - ・4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ・応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ・4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

  なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。
- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

☆6－17ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき、回転差に応じた駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

VTD-AWD

ターボのオートマチック車の機構です

VTD-AWD（不等＆可変トルク配分電子制御AWD）を採用しています。走行状態、路面状態に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

ターボ車を除くオートマチック車の機構です

アクティブトルクスプリット AWD を採用しています。走行条件に合わせて後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

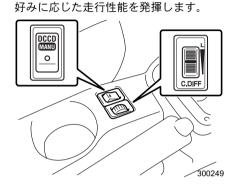
■全輪駆動の強制解除

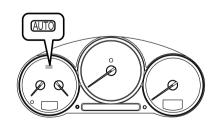
（ターボ車を除くAWDオートマチック車）

応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。エンジンルーム内のFWDヒューズホルダーにヒューズカバー裏のスペアヒューズ（どれでも可能）をさし込みます。

全輪駆動が解除され前二輪駆動になったときは、メーター内のAWD警告灯が点灯します。

タイヤの修理あるいは交換後、すみやかにFWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。

☆6－25ページ参照

抜いたスペアヒューズは、ヒューズカバー裏に戻します。

ドライバーズコントロールセンターデフ

STI車の機構です
ドライバーズコントロールセンターデフは、必要に応じて前後輪の差動制限（LSDトルク）を可変に調整できる機構です。
種々の路面、走行状態に応じてダイヤル設定（イニシャルLSDトルクを設定）すれば、好みに応じた走行性能を発揮します。

300249

■オートモード（オートモード装備車）

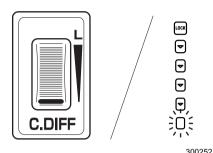
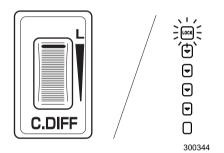
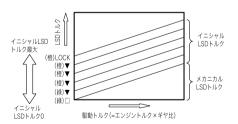
4輪車輪速センサ、スロットル開度センサ、ハンドル角センサ、ブレーキスイッチ、横G・ヨーレイトセンサなどの信号から走行状態、路面状況を推定し、電子制御で自動的に前後輪の差動制限（LSDトルク）を調整する機構です。
オートモード選択時は表示灯が点灯します。

300250

■マニュアルモード

コントロールダイヤルを操作し、任意に差動制限（イニシャルLSDトルク）を調整することができます。オートモード付車は、下図のマニュアルモードスイッチを押して、AUTOのインジケータ表示を消灯させた後（消灯した後は、自動的にマニュアルモードへ移行）に調整可能になります。

300251

●コントロールダイヤルの操作

ダイヤルは駐車ブレーキレバーの横にあり、一番手前がイニシャルLSDトルク最小（0）、一番奥がイニシャルLSDトルク最大です。その中間は連続的にイニシャルLSDトルクを調整できます。
イニシャルLSDトルクを上げるほど車両の安定性は高くなりますが、カーブでは曲がりにくくなりますので、好みに合わせて調整してください。
一般的に滑りやすい路面ではイニシャルLSDトルクを上げて、滑りにくい路面ではイニシャルLSDトルクを下げる使いかたが有効です。また、雪道やぬかるみでタイヤがスリップしたときは、ダイヤルをLOCKにすると脱出しやすくなります。

イニシャルトルク最小（0）：
　メカニカルLSDのみの差動制限

300252

イニシャルトルク最大：
　前後輪がほぼ直結状態

300344

300662

■デフロックの強制解除

オートモードおよびマニュアルモード（緑▼～橙LOCK）の差動制限中であっても、駐車ブレーキレバーを引けば瞬時にイニシャルLSDトルク最小（0）の状態になります（パーキングブレーキ警告灯と連動）。ただしレバーを引いても表示灯の表示は変わりません。
レバーを戻せば設定したイニシャルLSDトルクに戻します。

■タイトコーナーブレーキング現象

表示灯橙▼点灯位置で、舗装路でのカーブ走行や右左折、車庫入れなどを行うと、前後輪の回転差により振動、音を伴ったブレーキング現象が発生する場合があります。これは異常ではなく、コントロールダイヤルをイニシャルLSDトルク最小（0）にすると解消されます。
オートモードの場合は、自動的にイニシャルLSDトルクを制御します。オートモードの場合でも運転状態によっては、タイトコーナーブレーキング現象が発生する場合がありますが異常ではありません。
急加速、急カーブを走行中にコントロールダイヤルを操作すると、センターデフの差動により軽いショックを感じることがありますが正常です。

⚠ 注 意

- 万能車ではありません。過信は禁物です。急ハンドルや急ブレーキ、急カーブや下り坂、雪道や凍結路などの滑りやすい路面は安全な速度で慎重に走行してください。
- タイヤが空転しているときコントロールダイヤルを絶対に切り替えないでください。空転が停止してから操作してください。
- マニュアルモードで停車時は、コントロールダイヤルを最小（0）位置にしてください。
- けん引時は、コントロールダイヤルを最小（0）位置にしてください。
  けん引は車載かロープけん引による場合のみ可能です。前輪または後輪だけを上げたけん引は絶対にしないでください。
  けん引時の注意事項については、「けん引」の項を必ずお読みください。

☆6－17ページ参照

- パンクなどで応急用タイヤを使っているときは、必ずコントロールダイヤルを最小（0）にしてください。
  できるだけ早く標準タイヤを修理して付け替えてください。
- センターデフ故障時（コントロールユニット、センサー類、断線、ショートなど）イニシャルLSDトルク最小（0）位置（緑▯）のランプが1秒周期で点滅します。すみやかにスバル販売店で点検整備を受けてください。
  一度異常が検出されるとエンジンスイッチがOFFになるまで保持されるので、途中で復帰しても表示灯は点滅したままになります。
- トランスミッションオイルはマニュアル専用のスバルギヤオイルをご用意ください。
  オイル交換は通常走行の場合40,000 km毎に、過酷な走行頻度が多い場合は早めに実施してください。

使用 オイル	スバルギヤオイル エクストラS
交換時期	40,000 km

アドバイス

- 表示灯はあくまでも目安です。
- 表示灯はエンジンスイッチを ON にするとオートモード付車では AUTO 表示灯、オートモードなし車では設定した表示灯が点灯します。また、夜間ライト点灯時にダイヤルを早く動かしたときに表示が一瞬消えたように見えますが、正常です。
- 低速時、アクセルペダルを素早く操作したとき、センターデフからリヤデフ周辺部にかけて「コツコツ」音が発生する場合がありますが、センターデフの構造上発生する音であり正常です。
- 低速時、ハンドルをいっぱいまで切って旋回中、リヤデフから「コツコツ」音が発生する場合がありますが、機械式 LSD の構造上発生する音であり正常です。

ブレーキ

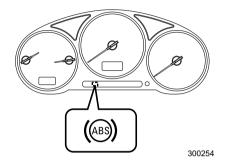
ABS：アンチロックブレーキシステム

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABS の電気系統に異常が生じた場合は ABS は作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

⚠ 注 意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
  ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 下記の路面などで ABS が作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
  - ・マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
  - ・道路のつなぎ目などの段差
  - ・凹凸路、石畳などの悪路
  - ・下り坂での旋回
  - ・路肩に草や砂利が多い道路
  - ・砂利道
  - ・雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
  とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約 10 km/h 以下になると ABS は作動しません。

アドバイス

ABS が作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABS が作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
  これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
  - ・エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  - ・ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

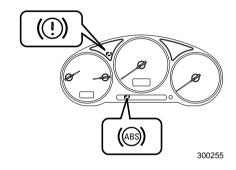
■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、その後に消灯するのが正常です。

⚠ 注 意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを ON にしても点灯しない。
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません)

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●EBD(エレクトロニック　ブレーキフォース ディストリビューション)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する装置です。

⚠ 注 意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3－36ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。
エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ハンドル

パワーステアリング

アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変化することがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱいに切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが低温で硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

4 室内装備品の使いかた

・エアコン

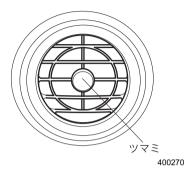
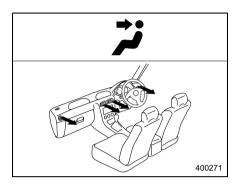
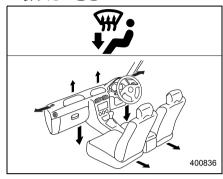
・オーディオシステム

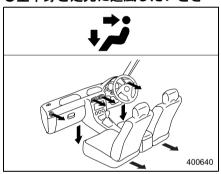
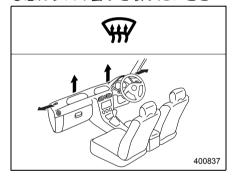
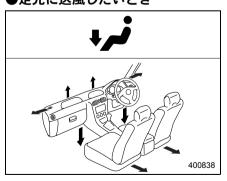
・室内装備

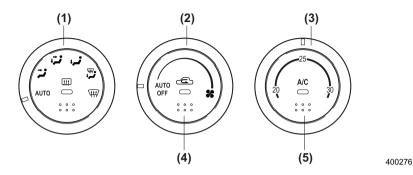
エアコン

吹き出し口の調整

●中央吹き出し口

吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。

●左右吹き出し口

吹き出し口全体を動かして風向きを調整します。また、吹き出し口中央のツマミを回すと風量の調整ができます。

吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。

●上半身に送風したいとき

●足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

●上半身と足元に送風したいとき

●窓ガラスの曇りを取りたいとき

●足元に送風したいとき

オートエアコン

（1）吹き出し口切り替えダイヤル
（2）風量調整（ファン）ダイヤル
（3）温度調整ダイヤル
（4）内外気切り替えスイッチ
（5）A/Cスイッチ(冷房・除湿機能)

■エアコンの使いかた

エンジンをかけているとき､風量調整（ファン）ダイヤルをOFF以外の位置にすると作動します。冷房・除湿をするときは、さらにA/Cスイッチを押します。風量調整（ファン）ダイヤルをOFFにすると止まります。

■オートでの使いかた

①温度調整ダイヤルを回し、希望温度に設定します。
②吹き出し口切り替えダイヤルを AUTO 位置にします。
③風量調整（ファン）ダイヤルを AUTO 位置にします。
④A/Cスイッチを長押し（1 秒以上）して、AUTOモードにします。
⑤内外気切り替えスイッチを長押し（1 秒以上）して、AUTOモードにします。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキをしっかりと踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。

次ページへ ▶

▶ 前ページより

- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置に付いて、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみとなり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適度に温度を調整してください。冷え過ぎは身体に害があります。設定温度25℃付近でお使いください。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。
- 冬場の始動時、風量調整（ファン）ダイヤルをAUTOにし、吹き出し口切り替えダイヤルを や 、 にしたとき、冷却水温が暖まるまで風量調整のオートモードは作動しません。
- 次の場合冷房・除湿機能は作動しません。
  - ・室内の温度が低いとき
  - ・外気温度が低いとき（0 ℃以下のとき）

■操作パネルの使いかた

●吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。

AUTO では適切な吹き出し口に自動制御されます。

内気循環時でも、ダイヤルを あるいは にしたときは、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）が ON になり、外気導入に切り替わります。

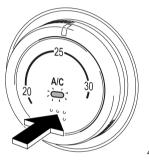
☆4－4ページ参照

400277

●風量調整（ファン）ダイヤル

風量を25段階に調整できます。

右に回すほど風量が増します。

AUTO では適切な風量に自動制御されます。

400278

●**A/Cスイッチ**

風量調整（ファン）ダイヤルがOFF以外のとき、スイッチを押すと冷房・除湿機能が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと冷房・除湿機能は停止します。

スイッチを長押し（1秒以上）するとAUTOモードとなり冷房機能のON/OFFを自動制御します。

AUTOモードに切り替わると表示灯が2回点滅します。AUTOモードを解除するには再度スイッチを押してください。

400281

●**内外気切り替えスイッチ**

一時的に外気を遮断したい場合に使います。スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。

早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。

表示灯が点灯しているときが内気循環です。

スイッチを長押し（1秒以上）するとAUTOモードとなり内外気を自動制御します。

AUTOモードに切り替わると表示灯が2回点滅します。

AUTOモードを解除するには再度スイッチを押してください。

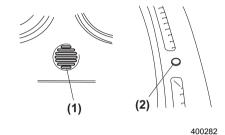
400279

⚠ 注 意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/C スイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●温度調整ダイヤル

室内温度を調整するとき使います。
温度設定は 20 ～ 30 ℃の範囲で調整できます。ただし、ダイヤルを左端または右端に設定したときは最大冷房または最大暖房となります。

400280

アドバイス

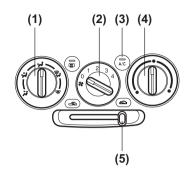
風量調整を AUTO 以外で使用すると、適温に温度調整されない場合があります。

■感知センサー

オートエアコンには次のセンサーが付いています。

(1) 室内温度センサー(エアコンパネル内)
(2) 日射センサー（ダッシュボード中央）
(3) 外気温度センサー（フロントバンパー裏側）

400282

⚠ 注 意

センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、物を置いたりしないでください。温度制御にずれが発生する原因となります。

■オートエアコンの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	A/Cスイッチ	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたはON	希望位置(中間より左側)	AUTOモードまたは外気導入	●早く冷やしたいときは、内外気切り替えを内気循環にしてください。 ●冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。
暖房	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたは希望位置	希望位置(中間より右側)	AUTOモードまたは外気導入	●ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 ●顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。
曇り除去と暖房	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたは希望位置	希望位置(中間)	AUTOモードまたは外気導入	●温度調整ダイヤルの位置によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱	AUTOまたは	AUTOまたは希望位置	AUTOモードまたは希望位置	希望位置(中間)	AUTOモードまたは外気導入	●温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去	AUTOまたは	希望位置	AUTOモードまたはON	中間より右側	AUTOモードまたは外気導入	●夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整は中間より左側でご使用ください。また、外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、ウインドゥの外側が曇る場合があります。このときは冷房機能を「OFF」にするか、温度調整ダイヤルを右に動かしてください。
換気	AUTOまたは	希望位置	AUTOモードまたはOFF	希望位置	AUTOモードまたは外気導入	――

注）吹き出し口切り替えダイヤルを あるいは にすると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになり、外気導入に切り替わります。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

マニュアルエアコン

（1）吹き出し口切り替えダイヤル
（2）風量調整（ファン）ダイヤル
（3）A/Cスイッチ
（4）温度調整ダイヤル
（5）内外気切り替えレバー

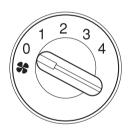
■エアコンの使いかた

エンジンをかけているとき、風量調整ダイヤルを０以外の位置にすると作動します。冷房・除湿をするときは、さらにA/Cスイッチを押します。風量調整ダイヤルを０にすると止まります。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキをしっかりと踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置について、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみとなり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適度に温度を調整してください。冷え過ぎは身体に害があります。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に２、３回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。
- 次の場合冷房・除湿機能は作動しません。
  - ・室内の温度が低いとき
  - ・外気温度が低いとき（0 ℃以下のとき）

■操作パネルの使いかた

●吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。
ダイヤルを［デフロスト・足元］あるいは［デフロスト］にしたときは、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになります。

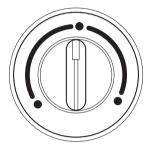
400284

●風量調整（ファン）ダイヤル

風量を４段階に調整できます。
数字が大きくなるほど強くなります。

400285

●内外気切り替えレバー

レバーを左側に動かすと内気循環になり、右側に動かすと外気導入になります。

400286

⚠ 注 意

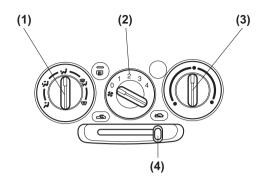
内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/C スイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●温度調整ダイヤル

送風温度を調整します。
温度を上げるときは右へ、下げるときは左へ回します。

400287

●A/Cスイッチ

風量ダイヤルが０以外のとき、スイッチを押すと冷房・除湿機能が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと冷房・除湿機能は停止します。

400288

■マニュアルエアコンの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	A/Cスイッチ	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房		希望位置	ON	希望位置（中間より左側）	外気導入	●早く冷やしたいときは、内外気切り替えを内気循環にしてください。 ●冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。
暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間より右側）	外気導入	●ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 ●顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。
曇り除去と暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間）	外気導入	●温度調整ダイヤルの位置によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間）	外気導入	●温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去		希望位置	ON	中間より右側	外気導入	●夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整は中間より左側でご使用ください。また、外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、ウインドゥの外側が曇る場合があります。このときは冷房機能をOFFにするか、温度調整ダイヤルを右に動かしてください。
換気		希望位置	OFF	希望位置	外気導入	――――

注）吹き出し口切り替えダイヤルを あるいは にすると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになります。

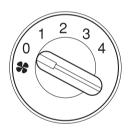
室内装備品の使いかた

ヒーターの使いかた

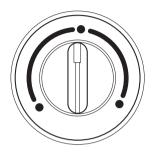
400289

（1）吹き出し口切り替えダイヤル
（2）風量調整（ファン）ダイヤル
（3）温度調整ダイヤル
（4）内外気切り替えレバー

■操作パネルの使いかた

①吹き出し口切り替えダイヤル
使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。

400284

②風量調整ダイヤル
風量を4段階に調整できます。数字が大きくなると強くなります。

400285

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

③温度調整ダイヤル
送風温度を調整します。
温度を上げるときは右へ、下げるときは左へ回します。

400287

④内外気切り替えレバー
レバーを左側に動かすと内気循環になり、右側に動かすと外気導入になります。

400286

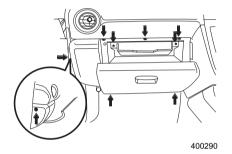
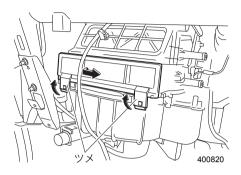
⚠ 注 意

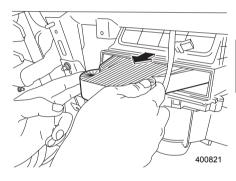
内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなります。

■ヒーターの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
暖房		希望位置	希望位置 （中間より右側）	外気導入	• ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 • 温度調整ダイヤルを右いっぱいに回して使用すると、顔部が熱く感じる場合があります。 • 顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。 • 足元の暖房感を損なうことなく、快適に使用できます。
頭寒足熱		希望位置	希望位置 （中間）	外気導入	• 温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去		希望位置	中間より右側	外気導入	• 夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整ダイヤルで適温に調整してください。
換気		希望位置	希望位置	外気導入	―――――

エアフィルターの交換

エアコンにはエアフィルターが装着されています。
快適にお使いいただくため定期的に交換してください。

■交換時期

12,000 km走行ごとまたは1年ごと

■交換方法

①グローブボックスを固定しているネジ 7本、クリップ1つを外し、グローブボックスを取り外します。

400290

②ツメを外してフタを横にずらしながら取り外します。

400820

③エアフィルターの両側を指で縮めながら取り外します。

400821

アドバイス

グローブボックス脱着の際、ハーネス（電線）などの部品に触れないようにしてください。

オーディオシステム

⚠ 注 意

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- 運転者は車が止まっているときにラジオ・オーディオを操作してください。
- 内部に水や異物を入れないでください。故障の原因となります。
- お子さまがディスク挿入口に指を入れないようにしてください。けがの原因となるおそれがあります。

ラジオ受信について

- 受信感度は周囲の状況、気象状況、送信局からの電波の強さ、送信局からの距離によって影響を受けます。山間部や建物の近くでは電波がさえぎられたり、電波が反響したりして受信状態が悪くなることがあります。また、電車の架線や高圧電線の近くでは高圧電流の影響でノイズ(雑音)が入ったりするなど受信状態が悪くなることがあります。
- ラジオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うとノイズ（雑音）が入ることがあります。

アンテナについて

●ガラスアンテナ

アンテナは、リヤウインドゥの内側にプリントされています。

アドバイス

リヤウインドゥを清掃するとき

- リヤウインドゥ内側を清掃するときは、アンテナ線に沿って柔らかい布で拭いてください。
  硬い布で拭くとアンテナ線を傷つけることがあります。
- リヤウインドゥのアンテナ線部に次の物を貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
  ・金属を含有するウインドゥフィルム
  ・外付けTVアンテナ
  ・その他の金属物

●ルーフアンテナ

- ルーフアンテナはルーフ後方の中央部に取り付けられています。
- アンテナのロッド部は前後方向に倒れます。ラジオを聞く際は、立てた状態にしてください。
- ロッドは根本を回すことで取り外しできます。

⚠ 注 意

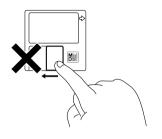
- 車庫、立体駐車場等、低い天井がある場所では、ロッドを倒してください。
- 洗車機で洗車する場合、ロッドを取り外してください。
  取り付けたままだと、ルーフに傷がつく場合があります。
- 外したロッドを取り付ける場合は、完全に締め付けてください。

●ロッドアンテナ

⚠ 注 意

- 洗車機で洗車する場合、アンテナを縮めてください。
  伸ばしたままだとアンテナが折れる場合があります。
- アンテナを伸ばした状態ではアンテナが外部のものにぶつかり折れる場合があります。ボディカバーをかける場合や、立体駐車場に駐車する場合などは、ロッドアンテナを縮めてください。

CDについて

- 下図のマークがついている音楽CDを使ってください。下図のマークがないものは使えません。

400335

- 大きい傷、変形、ヒビ等のあるディスクやハート型などの特殊形状をした CD は使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 寒いときや雨天のときは、プレーヤー内に露が生じ、正常に作動しないことがあります。この場合CDを取り出し、しばらく待ってから再度 CD を挿入してください。
- 炎天下に長時間駐車した後などはプレーヤーの温度が高くなり、正常に作動しないことがあります。温度が下がるまでしばらく待ってください。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びすることがあります。
- ケースからディスクを取り出す場合、ケース中心部を押し、ディスクの両端を持ってください。また、ディスク面に直接触れると音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター吹き出し口などの近くに置かないでください。ディスクが変形して使用できなくなります。
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどで傷をつけたりしないでください。
- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で中心から外側に向かって拭いてください。硬い布やシンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

MDについて

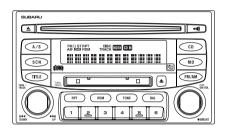
- MD のシャッターは開けられないようになっています。無理に開けるとカートリッジが損傷して使用できなくなります。シャッターが何らかの原因で開いてしまったときには、記録部分を指でさわらないようにしてください。記録部分に触れると使用できなくなったり、音飛びを頻繁に起こすようになります。

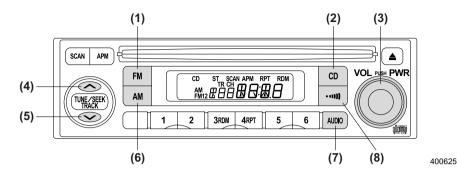
400109

- カートリッジ表面の汚れやゴミは乾いた布で拭き取ってから使用してください。とくに油汚れが付いた状態で使用しますと、ディスクが引き込まれなかったり、取り出せなくなることがあります。また、お手入れされるときは、シャッターを開けないようご注意ください。
- MDを長時間本体に入れたままにしないでください。また、取り出したMDは、MD専用ケースに入れて保管してください。
- MD を直射日光の当たる場所（ダッシュボードの上など）など温度が高くなるような場所に放置しないでください。MDのカートリッジが変形して使用できなくなります。
- ラベルのはがれかかった MD は使用しないでください。ラベルが浮いていたり、はがれかかっているMDを使用すると、本体の中ではがれて取り出せないなど故障の原因となります。
- レンズクリーナーは使用しないでください。故障の原因となります。

オーディオの種類

■タイプA

CD プレーヤー・AM ／ FM 電子チューナー
1DIN一体型オーディオ

400624

■タイプB

CD/MD プレーヤー・AM/FM電子チューナー
2DIN一体型オーディオ

400292

CDプレーヤー・AM／FM電子チューナー1DIN一体型オーディオ

電源、音量・音質の調整

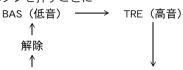
（1）FMボタン
（2）CDボタン
（3）PWR/VOL（電源／音量調整）ダイヤル
（4）（5）TUNE/SEEK TRACK（ラジオ選局／CD選曲）ボタン
（6）AMボタン
（7）AUDIOボタン
（8）･ıııl（交通情報）ボタン

■電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「PWR/VOL」ダイヤル（3）を押すごとに電源がON・OFFします。
電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。

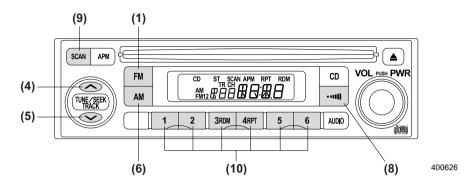
- CDを挿入したとき
- 「CD」ボタン（2）*、「FM」ボタン（1）、「AM」ボタン（6）、「･ıııl」ボタン（8）を押したとき
  ＊「CD」ボタン（2）はCDが入っているとき

■音量を調整するとき

「PWR/VOL」ダイヤル（3）を回して調整します。

右に回す：音が大きくなります
左に回す：音が小さくなります

■音質と前後・左右の音量バランスを調整するとき

①「AUDIO」ボタン（7）を押して調整モードを選択します。
ボタンを押すごとに

と、切り替わり、表示部に表示されます。

②「PWR/VOL」ダイヤル（3）を回してお好みに調整します。

モード （調整レベル表示）	左に回す	右に回す
BAS（低音） （－6～＋6）	弱	強
TRE（高音） （－6～＋6）	弱	強
FAD（前後） （R9～F9）	前側減衰	後側減衰
BAL（左右） （L9～R9）	右側減衰	左側減衰

アドバイス

5 秒間操作を行わないと、音量調整に戻ります。

ラジオを聞くとき

（1）　FMボタン
（4）（5）TUNE/SEEK TRACK
　　　（ラジオ選局）ボタン
（6）　AMボタン
（8）　•ıııll（交通情報）ボタン
（9）　SCANボタン
（10）選択ボタン

■FMを受信するとき

「FM」ボタン（1）を押します。
押すごとに
　FM1⟷FM2
と、切り替わり、表示部に表示されます。

■AMを受信するとき

「AM」ボタン（6）を押します。

■選局するとき

「TUNE/SEEK TRACK」ボタン「∧」（4）または「∨」（5）を押します。

●周波数に合わせて放送を聞くとき

「∧」(4)を押す：　ボタンを押すごとに周波数の高い方へ１ステップずつ切り替わります

「∨」(5)を押す：　ボタンを押すごとに周波数の低い方へ１ステップずつ切り替わります

●自動的に放送局を探すとき

「TUNE/SEEK TRACK」ボタン「∧」（4）または「∨」（5）を0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。

「∧」(4)を押す：　周波数の高い方へ放送局を探します

「∨」(5)を押す：　周波数の低い方へ放送局を探します

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

■記憶させた放送局を呼び出すとき

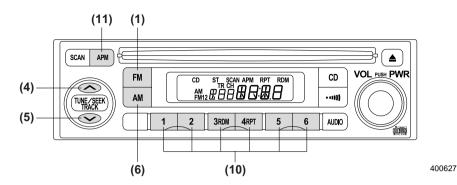
「選択」ボタン(10)のいずれかを押します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。
☆4－27ページ参照

■各放送局を数秒間ずつ聞きたいときは

放送局でどんな内容を放送しているかを知りたいときに使います。
「SCAN」ボタン(9)を押すと受信可能な放送局の内容を5秒間受信し、次の放送局に切り替わります。
止めるときは、「SCAN」ボタン(9)をもう一度押します。

■交通情報を聞くとき

「･ııııl」ボタン(8)を押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

●交通情報局をかえるとき

「TUNE/SEEK TRACK」ボタン「∧」(4)または「∨」(5)を押して選局します。
ボタンを押すごとに、

1629 kHz ⟷ 1620 kHz

と切り替わります。

ラジオの放送局を記憶するとき

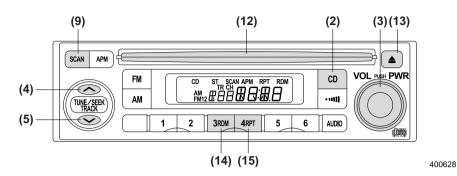
（1） FMボタン
（4）（5）TUNE/SEEK TRACK
（ラジオ選局）ボタン
（6） AMボタン
（10） 選択ボタン
（11） APMボタン

■手動で放送局を記憶するとき

①「FM」ボタン（1）または「AM」ボタン（6）を押してバンドを選択します。
②「TUNE/SEEK TRACK」ボタン「∧」（4）または「∨」（5）を操作し、記憶したい放送局を選択します。
③「選択」ボタン（10）のいずれか1つを1.5秒以上押します。
表示部に押したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

アドバイス

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大６局まで記憶できます。

■自動的に放送局を記憶するとき（APMモード）

①「FM」ボタン（1）または「AM」ボタン（6）を押してバンドを選択します。

②「APM」ボタン（11）を押すとAPMモードになります。表示部に“APM”が表示され受信可能な放送局が見つかると、チャンネル１から自動的に周波数の低い順に記憶していきます。再度「APM」ボタン（11）を押すと、APMモードが解除されます。
このとき表示部の“APM”が消灯しチャンネルに記憶された周波数も消去されます。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

CDを聞くとき

(2)　CDボタン
(3)　PWR/VOL（電源／音量調整）
　ダイヤル
(4)(5) TUNE/SEEK TRACK（CD 選曲）ボタン
(9)　SCANボタン
(12)　CD挿入口
(13)　イジェクト（CD排出）ボタン
(14)　RDM（ランダム演奏）ボタン
(15)　RPT（リピート演奏）ボタン

■CDを聞くとき

●CDが入っていないとき

エンジンスイッチが Acc または ON のとき、CD を挿入することができます。CD の中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にして CD 挿入口（12）に差し込みます。CDを挿入すると演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

●CDが入っているとき

「CD」ボタン（2）を押すと演奏が始まります。CD 演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

アドバイス

- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。
  ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3＊、WMA＊で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR －○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタン（13）を押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、また CD プレーヤーに対応している CD が正しく挿入されていることを確認してください。CDが取り出せない場合、もしくは CD を交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

＊音楽データを圧縮して記録する方式

■演奏を停止するとき
「PWR/VOL」ダイヤル（3）を押して電源を切るか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタン（13）を押してCDを排出します。

■CDを取り出すとき
「⏏」ボタン（13）を押します。CDが排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス
- エンジンスイッチがOFFでもCDを排出することができます。
- 一度排出されたディスクは「CD」ボタン（2）を押すと自動的に引き込まれます。
- 排出されたCDを15秒以上そのままにしておくと自動的に引き込まれます。この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタン（2）を押してください。（エンジンスイッチがON、Accのときのみ）

■選曲するとき
「TUNE/SEEK TRACK」ボタン「∧」（4）または「∨」（5）を押します。

●先の曲にするとき
「∧」（4）を押します。押すごとに先の曲を頭出しします。

●手前の曲にするとき
「∨」（5）を押します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲を頭出しします。

■曲の早送り、早戻しをするとき
「TUNE/SEEK TRACK」ボタン「∧」（4）または「∨」（5）を長めに押します。

●早送り
「∧」（4）を0.5秒以上押すと早送りされます。手を放したところから演奏を始めます。

●早戻し
「∨」（5）を0.5秒以上押すと早戻しされます。手を放したところから演奏を始めます。

■同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）
①曲の演奏中に「RPT」ボタン（15）を押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタン（15）を押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス
次の操作をしても自動的に解除されます。
- スキャンプレイ機能にする
- ランダムプレイ機能にする
- 選曲する

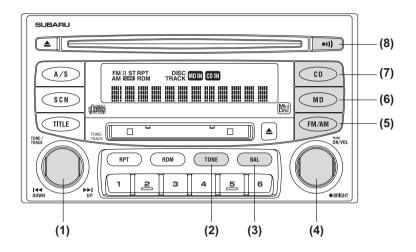
■曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタン（14）を押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタン（14）を押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- リピートプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする

■聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

①曲の演奏中に「SCAN」ボタン（9）を押します。
②表示部に“SCAN”が点灯します。
③演奏中の次の曲から曲の始めを10秒間つぎつぎに演奏します。
④解除するには再度「SCAN」ボタン（9）を押します。表示部の“SCAN”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- リピートプレイ機能にする
- ランダムプレイ機能にする
- 他のモードにする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- エンジンスイッチをOFFにする

CD/MDプレーヤー・AM/FM電子チューナー2DIN一体型オーディオ

電源、音量・音質の調整

400302

（1）TUNE/TRACK（ラジオ選局／CD、MD選曲）ダイヤル
（2）TONE（音質）ボタン
（3）BAL（音量バランス）ボタン
（4）ON/VOL（電源／音量調整）ダイヤル
（5）FM/AMボタン
（6）MDボタン
（7）CDボタン
（8）•))）（交通情報）ボタン

■電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤル（4）を押すごとに電源がON・OFFします。
電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。
- CD、MDを挿入したとき
- 「•))）」ボタン（8）、「CD」ボタン（7）＊、「MD」ボタン（6）＊、「FM/AM」ボタン（5）を押したとき
  ＊「CD」ボタン（7）、「MD」ボタン（6）はCDまたはMDが入っているとき。

■音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤル（4）を回して調整します。

右に回す：音が大きくなります
左に回す：音が小さくなります

■音質を調整するとき

①「TONE」ボタン（2）を押して調整モードを選択します。
ボタンを押すごとに

と、切り替わり、表示部に表示されます。

②「ON/VOL」ダイヤル（4）を回し、お好みに調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
BAS（低音）（－7～＋7）	低音減衰	低音強調
MIDDLE（中音）（－7～＋7）	中音減衰	中音強調
TREBLE（高音）（－7～＋7）	高音減衰	高音強調

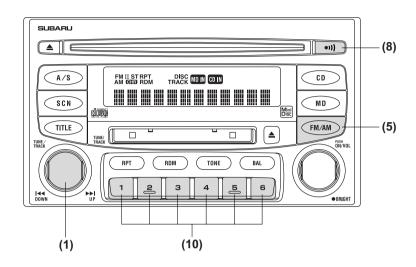
アドバイス

5 秒間操作を行わないと、調整前の表示に戻ります。

■前後・左右の音質バランスを調整するとき

①「BAL」ボタン（3）を押し、調整モードを選択します。
ボタンを押すごとに、

BALANCE（左右）→FADER（前後）→解除（音量調整）→BALANCE（左右）

と、切り替わり、表示部に表示されます。

②「ON/VOL」ダイヤル（4）を回し、お好みに調整します。

モード（調整レベル表示）	左に回す	右に回す
BALANCE（左右）（L15～R15）	右側減衰	左側減衰
FADER（前後）（R15～F15）	前側減衰	後側減衰

アドバイス

5 秒間操作を行わないと、調整前の表示に戻ります。

ラジオを聞くとき

400629

(1)　TUNE/TRACK（ラジオ選局）ダイヤル
(5)　FM/AMボタン
(8)　•))（交通情報）ボタン
(10)　選択ボタン

■FM/AMを受信するとき

「FM/AM」ボタン（5）を押します。

●バンドを切り替えるとき

「FM/AM」ボタン（5）を押し、バンドを選択します。

ボタンを押すごとに

と、切り替わり、表示部に表示されます。

■選局するとき

●周波数に合わせて放送を聞くとき

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を回してすぐに戻すと、周波数が1ステップ変化します。

右に回す：　ダイヤルを回すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります

左に回す：　ダイヤルを回すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります

●自動的に放送局を探すとき

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を回して0.5秒以上保持し続けると、次の放送局を探し始めます。放送局が見つかると受信を始めます。

右に回す：　周波数の高い方へ放送局を探します

左に回す：　周波数の低い方へ放送局を探します

アドバイス

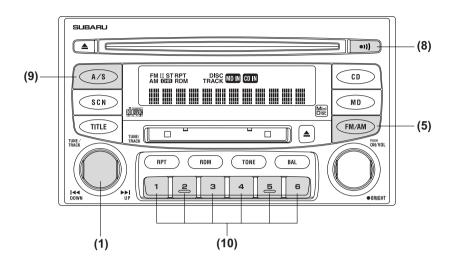
- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

■記憶させた放送局を呼び出すとき

「選択」ボタン（10）のいずれかを押します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。

☆4－35ページ参照

■交通情報を聞くとき

「•ıı)」ボタン（8）を押します。

どのモードからでも自動的に切り替わります。

もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

ラジオの放送局を記憶するとき

400630

（1） TUNE/TRACK（ラジオ選局）ダイヤル
（5） FM/AMボタン
（8） •ıı)（交通情報）ボタン
（9） A/S（自動記憶）ボタン
（10） 選択ボタン

■手動で放送局を記憶するとき

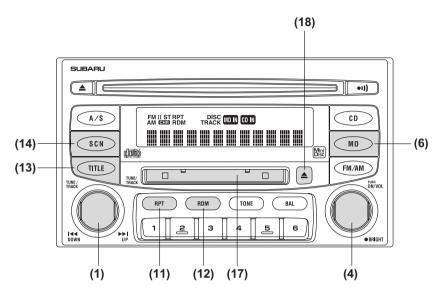
①「FM/AM」ボタン（5）を押してバンドを選択します。
②「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を操作し、記憶したい放送局を選択します。
③「選択」ボタン（10）のいずれか1つを2秒以上押します。
表示部に押したボタンの番号（チャンネル番号）が表示されます。

アドバイス

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

■自動的に放送局を記憶するとき

①「FM/AM」ボタン（5）を押してバンドを選択します。

②「A/S」ボタン（9）を2秒以上押します。受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から自動的に周波数の低い順に記憶されます。

アドバイス
受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

■交通情報局をかえるとき

①「•ıı)」ボタン（8）を押して、交通情報を選択します。

②「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を回して選局します。

③「•ıı)」ボタン（8）を2秒以上押すと、選局した交通情報局を記憶させることができます。

MDを聞くとき

（1）　TUNE/TRACK（MD選曲）ダイヤル
（4）　ON/VOL（電源／音量調整）ダイヤル
（6）　MDボタン
（11）RPT（リピート演奏）ボタン
（12）RDM（ランダム演奏）ボタン
（13）TITLE（表示切り替え）ボタン
（14）SCNボタン
（17）MD挿入口
（18）MDイジェクト（MD排出）ボタン

■MDを聞くとき

●MDが入っていないとき

エンジンスイッチが Acc または ON のとき、MDを挿入することができます。
MD のラベル面を上にし、シャッター面を右側にして MD 挿入口（17）に入れます。MDを挿入すると演奏が始まります。

●MDが入っているとき

「MD」ボタン（6）を押すと演奏が始まります。
MD 演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

●MDLPには対応していません
MDLPは無音状態で再生されます。

アドバイス

- データ用のMDは使用できません。音楽用のMDを使用してください。
- MDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR －○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタン（18）を押してMDを取り出してください。MDに傷や変形がないこと、またMDプレーヤーに対応しているMDが正しく挿入されていることを確認してください。MDが取り出せない場合、もしくはMDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

■演奏を停止するとき
「ON/VOL」ボタン（4）を押すか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタン（18）を押してMDを排出します。

■MDを取り出すとき
「⏏」ボタン（18）を押します。MDが排出され、前のモードに切り替わります。

■選曲するとき
●先の曲にするとき
「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を右に回し、すぐ戻します。回すごとに先の曲を頭出しします。

●手前の曲にするとき
「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を左に回し、すぐ戻します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲を頭出しします。

■曲の早送り、早戻しをするとき
●早送り
「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を右に回し、0.5秒以上保持し続けると早送りされます。手を放したところから演奏を始めます。

●早戻し
「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を左に回し、0.5秒以上保持し続けると早戻しされます。手を放したところから演奏を始めます。

■同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）
①曲の演奏中に「RPT」ボタン（11）を押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタン（11）を押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- 他のモードにする
- ランダムプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- エンジンスイッチをOFFにする

■聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

「SCN」ボタン（14）を押すと“SCAN”と表示し、各曲の先頭部分を10秒間ずつ演奏します。
解除するときは再度「SCN」ボタン（14）を押します。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- リピートプレイ機能にする
- ランダムプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- エンジンスイッチをOFFにする

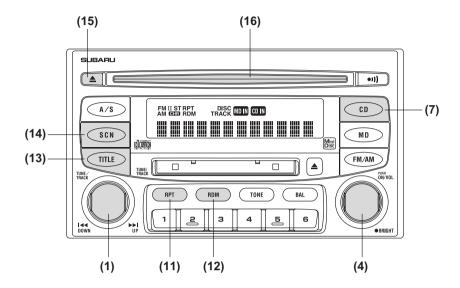
■曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタン（12）を押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタン（12）を押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- 他のモードにする
- リピートプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- エンジンスイッチをOFFにする

■表示部の表示を切り替えるとき

MD再生時、「TITLE」ボタン（13）を押すごとに表示の切り替えができます。

トラック番号（曲番号）と演奏時間
↓
トラックタイトル（曲名）表示
↓
ディスクタイトル表示
（→トラック番号（曲番号）と演奏時間に戻る）

アドバイス

- 漢字、ひらがなで入力されたタイトルは表示できません。
- タイトル表示は12文字までしか表示できません。13文字以上のタイトル名の場合はタイトル表示中に「TITLE」ボタン（13）を2秒以上押すと13文字目からのタイトル名が表示されます。
- ディスクタイトル、トラックタイトルが記録されていないMDを演奏中にディスクタイトル／トラックタイトル表示に切り替えると、それぞれ“no name”と表示されます。

CDを聞くとき

（1） TUNE/TRACK（CD選曲）ダイヤル
（4） ON/VOL（電源/音量調整）ダイヤル
（7） CDボタン
（11） RPT（リピート演奏）ボタン
（12） RDM（ランダム演奏）ボタン
（13） TITLEボタン
（14） SCNボタン
（15） イジェクト（CD排出）ボタン
（16） CD挿入口

■CDを聞くとき

●CDが入っていないとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。CDの中心穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてCD挿入口（16）に差し込みます。CDを挿入すると演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

●CDが入っているとき

「CD」ボタン（7）を押すと演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

アドバイス

- 8 cm CD は 8 cm CD アダプターを使用せず、そのまま挿入してください。アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど、損傷の原因となります。
- CD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3*、WMA*で記録されたCDは再生できません。
- CD･TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR －○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタン（15）を押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCD プレーヤーに対応している CD が正しく挿入されていることを確認してください。CDが取り出せない場合、もしくは CD を交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

＊音楽データを圧縮して記録する方式

■演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤル（4）を押して電源を切るか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタン（15）を押してCDを排出します。

■CDを取り出すとき

「⏏」ボタン（15）を押します。CD が排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- 一度排出されたディスクは「CD」ボタン（7）を押すと自動的に引き込まれます。
- 排出された CD を 15 秒以上そのままにしておくと自動的に引き込まれます。この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタン（7）を押してください。
- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- CD　が未挿入のときでも「⏏」ボタン（15）を押すと、CD排出機構が動作し、動作音が聞こえます。

■選曲するとき

●先の曲にするとき

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を右に回し、すぐ戻します。回すごとに先の曲を頭出しします。

●手前の曲にするとき

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を左に回し、すぐ戻します。1 回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲を頭出しします。

■曲の早送り、早戻しをするとき

●早送り

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を右に回し、0.5秒以上保持し続けると早送りされます。手を放したところから演奏を始めます。

●早戻し

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を左に回し、0.5秒以上保持し続けると早戻しされます。手を放したところから演奏を始めます。

■同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタン（11）を押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタン（11）を押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- ランダムプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- エンジンスイッチをOFFにする

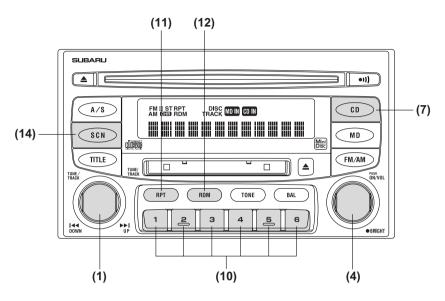
■曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタン（12）を押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタン（12）を押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- リピートプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- エンジンスイッチをOFFにする

■聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

「SCN」ボタン（14）を押すと、各曲の先頭部分を10秒間ずつ演奏します。このとき再生しているトラックNo.と“SCAN”が表示されます。
解除するときは再度「SCN」ボタン（14）を押します。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- リピートプレイ機能にする
- ランダムプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- エンジンスイッチをOFFにする

オプションのCDチェンジャーを接続したとき

400306

（1） TUNE/TRACK（CD選曲）ダイヤル
（4） ON/VOL（電源／音量調整）ダイヤル
（7） CDボタン
（10） CD選択ボタン
（11） RPT（リピート演奏）ボタン
（12） RDM（ランダム演奏）ボタン
（14） SCNボタン

■演奏するとき

エンジンスイッチが Acc または ON のとき「CD」ボタン（7）を押すと演奏が始まります。
表示部に“CHR”と表示され、ディスク番号とトラック番号（曲番号）が表示されます。

アドバイス

- CD プレーヤー本体に CD が挿入されているときは「CD」ボタン（7）を押すごとに、CD プレーヤーでの再生⇔ CD チェンジャーでの再生に切り替わります。
- CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。

次ページへ ▶

室内装備品の使いかた

▶前ページより

- CDチェンジャーにマガジン＊が装着されていないときは、“NO MAGAZINE”と表示します。マガジンにCDが挿入されていないときは、“NO DISC”と表示します。
  ＊マガジン：
  CDを入れる入れ物のことです。このマガジンにCDを入れ、CDチェンジャーに装着するとCDチェンジャーが使用可能となります。
- CDチェンジャーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR ー○”と表示されます。表示された場合は、マガジンを取り出してください。マガジンに挿入されているCDに傷や変形がないこと、またCDチェンジャーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。詳しくは、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

■演奏を止めるとき

「ON/VOL」ダイヤル（4）を押して電源を切るか、他のモード（ラジオ、CD、MD）に切り替えます。

■演奏するCDを指定するとき

「選択」ボタン（10）の中から、聞きたいディスク番号を押すと、そのCDを演奏します。

アドバイス

マガジンにCDが装着されていない番号を指定したときは、次のCDを再生します。

■選曲するとき

●先の曲にするとき

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を右に回し、すぐ戻します。回すごとに先の曲を頭出しします。

●手前の曲にするとき

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を左に回し、すぐ戻します。1回目で今聞いている曲の先頭に、押すごとに手前の曲を頭出しします。

■曲の早送り、早戻しをするとき

●早送り

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を右に回し、0.5秒以上保持し続けると早送りされます。手を放したところから演奏を始めます。

●早戻し

「TUNE/TRACK」ダイヤル（1）を左に回し、0.5秒以上保持し続けると早戻しされます。手を放したところから演奏を始めます。

■同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタン（11）を押します。
②表示部に“RPT”を表示させます。演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタン（11）を押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- マガジンを取り出す
- ランダムプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- CDを変更する
- エンジンスイッチをOFFにする

■曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタン（12）を1秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタン（12）を押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- マガジンを取り出す
- リピートプレイ機能にする
- スキャンプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- CDを変更する
- エンジンスイッチをOFFにする

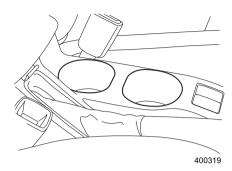
■聞きたい曲を探すとき（スキャンプレイ）

「SCN」ボタン（14）を押すと、各曲の先頭部分を10秒間ずつ演奏します。
解除するときは再度「SCN」ボタン（14）を押します。

アドバイス

次の操作をしても自動的に解除されます。
- 演奏を停止する
- マガジンを取り出す
- ランダムプレイ機能にする
- リピートプレイ機能にする
- 選曲、早送り、早戻しをする
- 他のモードにする
- CDを変更する
- エンジンスイッチをOFFにする

■マガジンの取り扱い

マガジンのチェンジャーへの挿入、チェンジャーからの排出方法、マガジンへのCD挿入、マガジンからのCD排出方法、その他のCD チェンジャーに関する注意は、CD チェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

アドバイス

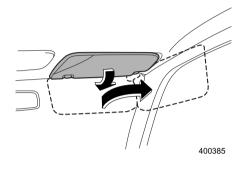
- 8 cm CD は 8 cm CD アダプターを使用してください。アダプターを使用しないと、ディスクが取り出せないなど、損傷の原因となります。
- CD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3*、WMA*で記録されたCDは再生できません。
- CD･TEXTについては対応しておりません。

＊音楽データを圧縮して記録する方式

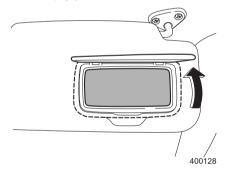
室内装備

カップホルダー

400319

⚠ 警告

- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますのでご注意ください。

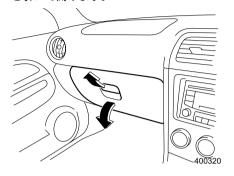
サンバイザー

太陽光がまぶしいときにサンバイザーを降ろします。
横に回すときはフックから外して使用します。
運転席側にはチケットホルダーが付いています。

400385

■バニティミラー

運転席、助手席のサンバイザー裏側に鏡がついています。

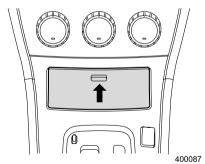
400128

⚠ 注意

走行中は必ずフタを閉めてください。

小物入れ

■グローブボックス

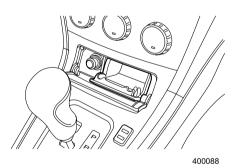
小物や書類を入れるのに使います。取っ手を引いて開けます。

400320

> **⚠ 注 意**
>
> **走行中は**
> グローブボックスを必ず閉めておいてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。

■インストルメントパネル

カバーの上側を押してカバーを開けると、小物入れとして使用できるようになります。

400087

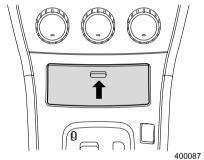
> **⚠ 注 意**
>
> この小物入れを灰皿として使用しないでください。火災の原因になります。

●前席用灰皿（ディーラーオプション）

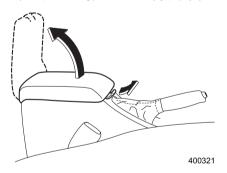
カバーの上側を押してカバーを開けると、灰皿のフタが開いて使用できるようになります。

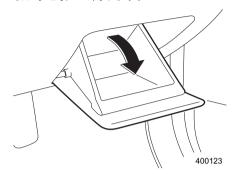
ライティングスイッチを〔車幅灯マーク〕または〔前照灯マーク〕にすると照明がつきます。

外すときは、灰皿のフタを持ち上げるようにして引き出します。

400087

400088

⚠ 注 意

- マッチ、タバコは完全に火を消してから入れ、確実に閉めてください。開けたままにすると火が他の吸ガラに燃え広がり、火災になることがあります。
- 紙くずなど燃えやすいものを入れないでください。
- 吸ガラをため過ぎないでください。

アドバイス

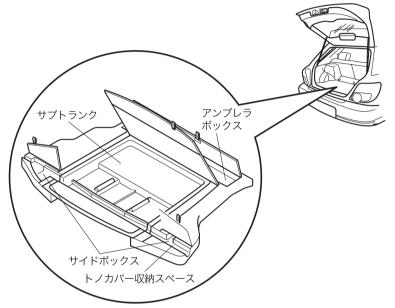
灰皿清掃時には、フタのヒンジまわりに付着したタバコの灰や燃えのこりをきれいに取り除いてください。
燃えのこりが詰まるとフタが開きにくくなる場合があります。

■コンソールボックス

ロックボタンを引いてフタを開けます。

400321

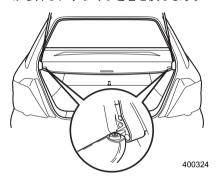
■コイントレイ

取っ手を引いて開けます。

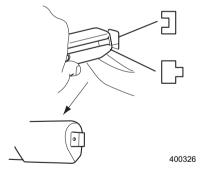
400123

サブトランク（ワゴン）

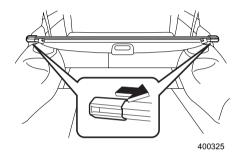
ラゲッジルームの床下に小さい荷物を収納することができます。三角停止表示板も収納できます。
ディーラーオプションのトノカバーを取り外したときは、サブトランク内に収納することができます。

400638

リッド（フタ）の取っ手を持って開けます。

トノカバー（ワゴン）

（ディーラーオプション）

●使用するときには

トノカバー中央部を持ち、ゆっくりとフックの手前まで引き、下げるようにして両側のフックに引っかけます。
戻すときは中央部を持ち、一度手前に引いたまま持ち上げるようにしてフックから外し、ゆっくりと巻き戻します。

400324

●取り付けるには

トノカバーの両端を縮め、トノカバーの凸部とボディの凹部を合わせて、取り付けます。

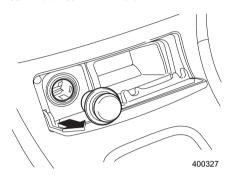
400326

●取り外すには

巻き戻した状態でトノカバーの両端を縮め、取り外します。取り外したトノカバーはサブトランクに収納することができます。

400325

アドバイス

トノカバーの上に物をのせないでください。
物が落下したり、トノカバーが損傷するおそれがあります。

電源ソケット

エンジンスイッチが Acc または ON のとき12V直流電流が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。
電源ソケットはインストルメントパネル小物入れ内に付いています。

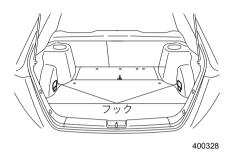
⚠ 注 意

電源ソケットから電源を取るときは、スバル純正品の使用をお奨めします。自動車用電気製品は 12V 120W以下のものをご使用ください。また、ご使用の際、下記項目をお守りください。

- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。
  また、走行中の使用でも、不要になったら切るように心がけてください。

■シガレットライター（ディーラーオプション）

エンジンスイッチがAccまたはONのとき使用できます。シガレットライターを押し込んで手を放します。元の位置に戻ったら使用できます。

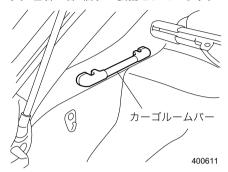
⚠ 注 意

- シガレットライター横の小物入れを灰皿として使用しないでください。火災の原因になります。

☆4－47ページ参照

- シガレットライターの金属部分には触れないでください。やけどをすることがあります。
- シガレットライターを押さえつけたままにしないでください。シガレットライターが過熱して危険です。
- 30秒以上たっても戻らないときは、手で引き出してください。
- 他車のシガレットライターを使用しないでください。戻らなくなることがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物は入れないでください。

カーゴフック(ワゴン)

カーゴルームに4か所取り付けてあります。カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。

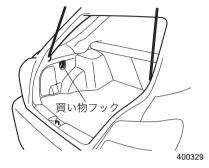
⚠ 注 意

カーゴフックを使うとき
このフックはカーゴルームネットなど軽量物の固定、引っかけの用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	20 kg

■カーゴルームバー

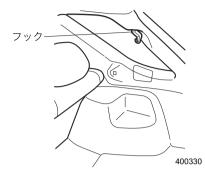
ネットなどを引っかけるときに使用します。左右に各1個ずつ装備されています。

⚠ 注 意

カーゴルームバーを使うとき
ネットなどを張ったときは、軽量物（衣類等）をのせる用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	3 kg

買い物フック（ワゴン）

買い物袋などが転がらないようにするときに利用します。
袋の底を床につけ、手さげ部分をフックに巻きつけて使ってください。

〈カーゴルーム部〉

> ⚠ **注 意**
>
> 買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。
>
> | 許容引張り荷重 | 10 kg |
> |---|---|

〈ピラー部〉

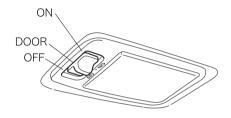
トランクルーム右側の内張りに付いています。

> ⚠ **注 意**
>
> 買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。
>
> | 許容引張り荷重 | 3 kg |
> |---|---|

室内の照明

■ルームランプ

スイッチの位置により切り替えができます。

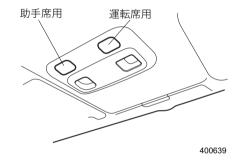
ON　　　：常に点灯します。
中間（DOOR）：ドア（リヤゲートを含む）を開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF　　　：常に消灯します。

●オフディレイ機能

スイッチを中間位置にしているときに、下記操作を行うと一旦点灯し、徐々に消灯していきます。（オフディレイ機能）

- ドアを開けて閉めたとき
- キーレスエントリー（電波式リモコンドアロック）で解錠したとき

●キー抜き連動機能

スイッチを中間位置にしているとき、エンジンスイッチからキーを抜くと約30秒間点灯し、徐々に消灯していきます。

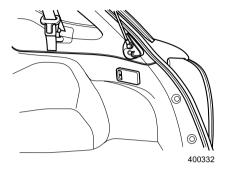
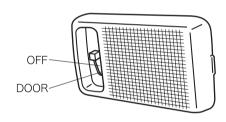
●バッテリー上がり防止機能

スイッチを中間位置にしているとき、半ドアなどでルームランプが点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約30分後に自動的に消灯します。
自動消灯時、ルームランプが点滅し、ブザーが鳴ります。

☆2－4ページ参照

■スポットマップランプ

右側のスイッチを押すと右側のランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
左側も同じように使います。
夜間、車を止めて地図を見るときなどに便利です。

アドバイス

車から離れるときには
消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。

点灯したままにしないで
長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

■カーゴルームランプ

OFF　：常に消灯します。

DOOR ：リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。

400332

400333

●オフディレイ機能

スイッチをDOOR位置にしているときに、下記操作を行うと一旦点灯し、徐々に消灯していきます。（オフディレイ機能）

- ドアを開けて閉めたとき
- キーレスエントリー（電波式リモコンドアロック）で解錠したとき

●キー抜き連動機能

DOOR位置にしているとき、エンジンスイッチからキーを抜くと約30秒間点灯し、徐々に消灯していきます。

●バッテリー上がり防止機能

DOOR位置のとき、半ドアなどでカーゴルームランプが点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約30分後に自動的に消灯します。

自動消灯時、カーゴルームランプが点滅し、ブザーが鳴ります。

☆2－4ページ参照

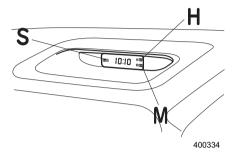
アドバイス

車から離れるときには

消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。

点灯したままにしないで

長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

時計

エンジンスイッチがAccまたはONのとき時刻が表示されます。

●表示の合わせかた

「時」の調整　…Hボタンを押します。
「分」の調整　…Mボタンを押します。
「時報合わせ」…時報と同時にSボタンを押します。
（例）1：01～1：29の場合…1：00
　　　1：30～1：59の場合…2：00

アドバイス

バッテリーの接続を外すと時刻が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に修正してください。

5 寒冷地での使いかた

・寒冷地での使いかた

寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検

■冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください

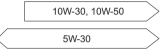
雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

アドバイス

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
- 装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ・4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ・タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。

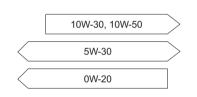
☆5－8ページ参照

  - ・STI は標準装着タイヤとして 235/45R17が設定されていますが、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する場合は225/45R17を推奨します。タイヤ空気圧は 235/45R17 と同じです。

☆8－6ページ参照

  - ・タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

■エンジンオイル

下表を参考に、外気温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。

●ターボ車

500252

●ターボ車以外

500251

アドバイス

- ターボ車にはスバルモーターオイル SM 5W-30（SM級）の使用をお奨めします。
- ターボ車以外にはスバルモーターオイル SM 0W-20（SM級）の使用をお奨めします。

☆8－3ページ参照

■冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバル純正クーラント（希釈タイプあるいは濃縮タイプ）をお使いください。

- 希釈タイプは、そのままお使いください。
- 濃縮タイプは、濃度を50％の希釈割合（濃度）にしてお使いください。希釈に使用する水は、軟水または水道水をご使用ください。

アドバイス

工場出荷時には50％濃度にしております。

■ウォッシャー液の濃度点検

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

注 意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとウインドゥに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。

別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤をお奨めします。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。
- ワイパーブレードの寸法は下記のとおりです。

フロント
　運転席側：550 mm
　助手席側：425 mm
リヤ
　ワゴン　：350 mm
　セダン　：375 mm

⚠ 注 意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなることがあります。その場合には、速度を落として走行してください。

アドバイス

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

走行する前に

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。
雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。
付着している雪や氷を取り除いてください。

⚠ 注 意

雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。
各タイヤの内側にはABSの車速センサーを取り付けてあります。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

■屋根の雪の除去

走行する前に屋根に積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

アドバイス
金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるときには

ドアが凍結しているときに無理に開けると、ドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を充分拭き取ってください。

アドバイス
ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。

ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウインドゥなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

無理にワイパーを作動させるとワイパーブレードのゴムが切れることがあります。

ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。

- フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを（デフロスター）にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
- リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3－14、3－15、4－4ページ参照

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤでの発進をお奨めします。
- オートマチック車：
  スノーホールドモードスイッチをONにしてください。

☆3－55ページ参照
- マニュアル車：
  チェンジレバーを“2”にします。

☆3－44ページ参照

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。
走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。
効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。
ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき車を止め、足廻りを確認し、取り除いてください。

☆5－4ページ参照

■ヘッドランプを点検してください

ヘッドランプが汚れていると正常に照らせませんので、汚れを拭き取ってください。
HIDヘッドランプ装着車は、HIDランプの発熱量が少ないため雪が溶けにくい場合があります。雪を落として走行してください。

駐車するときは

■駐車ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキをかけておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。
次の要領で駐車してください。

- マニュアル車はチェンジレバーを“1”か“R”に入れます。
- オートマチック車はセレクトレバーを[P]に入れます。
- 輪止めをします。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防ぎます。

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも充分に洗ってください。放置すると錆の原因となります。

■洗車のしかた

☆7－3 ページ参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。
また、ブレーキも凍結することがありますので、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。
☆7－3ページ参照

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップが傷つく場合があります。

⚠ 注 意

- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみなどを確かめてください。

■タイヤサイズに合ったものを使用してください

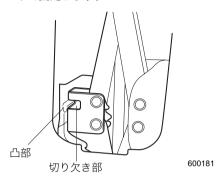
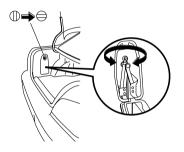
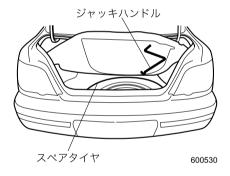
タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

タイヤサイズ	スバル純正タイヤチェーン			市販JIS チェーンNo.
	スチールチェーン	スプリングチェーン	サイルチェーン	
175/70R14	B3115AA031	B3177AA010	B3176AE001	45191
195/60R15	B3115A0002	B3177AA040（TS-C374）	B3176AE003	45192
205/50R16	装着不可	B3177FA010（TS-C375）	装着不可	装着不可
205/55R16	装着不可	B3177AE000	装着不可	装着不可
215/45R17	装着不可	B3177AC000（TS-D302）	装着不可	装着不可
235/45R17	装着不可	B3177FE000	装着不可	装着不可

6 万一のとき

ジャッキ、スペアタイヤ、工具

ジャッキ、ジャッキハンドル

■ジャッキ

①セダンはトランクルーム、ワゴンはカーゴルーム助手席側に収納されています。カバーを外し、ジャッキをゆるめて取り出します。

600180

②収納するときは、ジャッキの切り欠き部をホルダー凸部に合わせ、ジャッキを広げて固定します。

600181

■ジャッキハンドル

●セダン（STI spec Cを除く）

トランクルーム内のトランクマットボード裏側に収納されています。

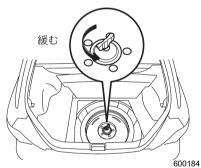
600530

アドバイス

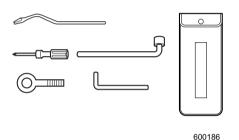
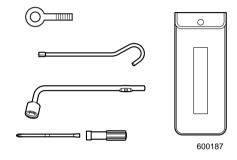
STI spec C のジャッキハンドルは、工具袋に入っています。
☆6－4ページ参照

●**ワゴン**
カーゴルーム床下に収納されています。

スペアタイヤ

■取り外しかた

●**セダン**
マットの下に格納されています。固定ネジをゆるめて取り外してください。

●**ワゴン**
カーゴルーム内のフロア部に格納されています。固定ネジをゆるめて取り外してください。

工具

工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。その他、ご自分で必要と思われる工具もそろえておくと点検や手入れのとき役立ちます。

〈STI spec C以外〉

- ツールバッグ
- ドライバー（＋、－両方に使えます）
- けん引フック
- ホイールナットレンチ
- L型ハンドル（サンルーフ付車のみ入っています）
- ホイールキャップリムーバー（ホイールキャップ付車のみ入っています）

600186

〈STI spec Cのみ〉

- ツールバッグ
- ジャッキハンドル先端
- ドライバー（＋、－両方に使えます）
- けん引フック
- ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル兼用）

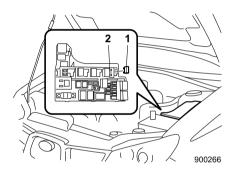
600187

応急用スペアタイヤ

⚠ 注 意

応急用スペアタイヤについて

応急用スペアタイヤは標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。

- 応急用スペアタイヤは後輪にのみ装着してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100 km/h以下の速度で走行してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
  空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm²）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
  この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時よりも車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- スリップサインが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

■オートマチック車における取り扱い

ターボ車を除く AWD オートマチック車は、応急用スペアタイヤ装着の際、全輪駆動を強制解除してください。

●強制解除の方法

①エンジンを止めます。

②ボンネットを開けます。

③エンジンルーム内のヒューズボックスを開けます。

④ヒューズボックス内の FWD ヒューズホルダーにスペアヒューズを差し込みます。
スペアヒューズはヒューズボックスの裏フタに付いています。どのスペアヒューズを使ってもかまいません。

1：スペアヒューズ
2：FWDヒューズホルダー

⑤ヒューズボックスを閉じ、ボンネットを閉じます。

⑥エンジン始動後、メーター内のAWD警告灯が点灯していることを確認してください。AWD警告灯が点灯しているときは全輪駆動が解除され、前輪駆動（二輪駆動）になります。

パンク修理後、応急用スペアタイヤから標準タイヤに戻したときは、必ず差し込んだヒューズを抜き全輪駆動に戻してください。
抜いたヒューズはヒューズホルダーに戻します。

アドバイス

上記の処置はマニュアル車やターボ車には必要ありません。ヒューズを差し込んでも全輪駆動の強制解除はできません。

タイヤ交換

⚠ 警 告

- エンジンをかけたままのジャッキアップや、ジャッキアップしてからのエンジン始動などをしないでください。車が発進する場合やジャッキが外れるなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたときは車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたときは車両の下にもぐり込まないでください。
  ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。
  また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキレバーを引き、オートマチック車はセレクトレバーを[P]に、マニュアル車はシフトレバーを“R”または“1”にしてください。
- 輪止めなどをして車を固定してください。
- 同乗者は必ず車から降ろしてください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め直してください。

☆6－10ページ参照

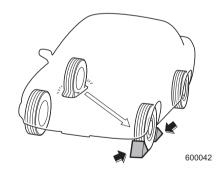
- 車体に振動が出たときはスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。

アドバイス

- ガレージジャッキ等を使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

タイヤ交換手順

■交換前にすること

①交通のじゃまにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

⚠ 注 意

安全な場所を選んでください
地面が平坦で硬く、車が安定する場所を選んで止めてください。

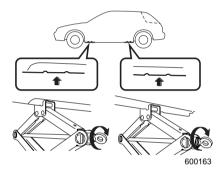
②駐車ブレーキレバーを引きます。
マニュアル車はシフトレバーを“R”または“1”に、オートマチック車はセレクトレバーをPに入れます。

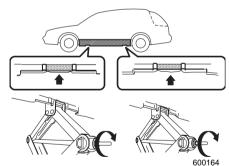
③非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。

④車が動き出さないように交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。
（図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。）

⑤ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。

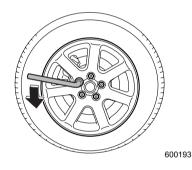
☆6－2ページ参照

⑥応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

アドバイス

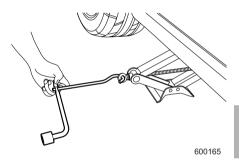
輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

■ジャッキアップするとき

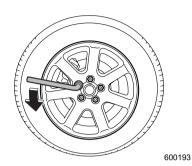
①交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。

〈サイドシルスカートなし〉

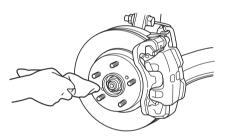
〈サイドシルスカート付〉

⚠ 注 意

ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。
ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

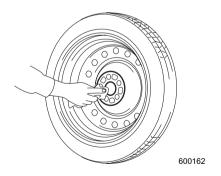
②フルホイールキャップを外します。（フルホイールキャップ付車のみ）
③ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。

600193

④ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

600194

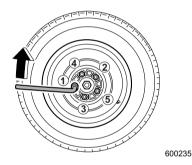
⑤ STI spec C では、ホイールナットレンチとジャッキハンドル先端を組み合わせて使用し、車体を上げます。

600165

■タイヤ交換

①ホイールナットを外します。

600193

②タイヤを着け替えます。
このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。

600061

600162

アドバイス

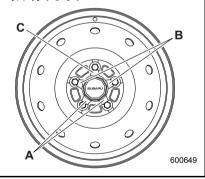
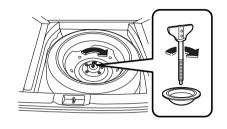
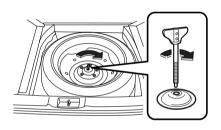
タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

③ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。

④ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。

⑤ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。

600235

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参　考）
400～500 N（40～50 kg）	80～100 N・m（8～10 kg・m）

> ⚠ **注 意**
>
> - ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
> - ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。
>
> **STI spec C、16インチホイール装着車：**
>
> ホイールキャップを取り付ける場合は、下記の手順で取り付けてください。取り付けが困難になる場合や、ホイールキャップが破損する場合があります。
>
> ①ホイールキャップのA部をホイールナットに合わせます。
> ②ホイールキャップのB部をホイールナットに合わせ、押し込みます。
> ③ホイールキャップのC部を手で叩いて取り付けます。
>
>
>
>
> 600649

■パンクしたタイヤの格納

- アルミホイール装着車は、センターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。スペーサーは図の向きにして取り付けます。

600064

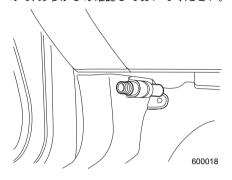
- 応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを図の向きにして取り付けます。

600065

■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

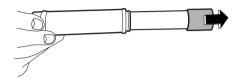
☆6－2ページ参照

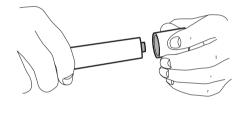
- ターボ車を除くAWDオートマチック車は応急用スペアタイヤに交換したとき、全輪駆動（四輪駆動）を強制解除してください。
  パンク修理後、応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に戻したときは、全輪駆動に戻してください。

☆6－6ページ参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ(修理したタイヤ)に交換してください。

発炎筒について

グローブボックス左下に備えつけてあります。
使用方法は発炎筒の外筒に書いてありますので、あらかじめ確認しておいてください。

600018

■発炎筒の使いかた

①ケースをひねり、ケースを取り外します。

600029

②ケースを本体の後部に取り付け、白いキャップを取り外します。

600030

③本体の先端に、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。

600031

⚠ 警告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。

☆3－16ページ参照

アドバイス

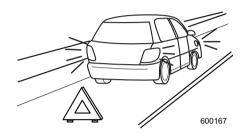
発炎筒はすぐに使えるようにしておいてください

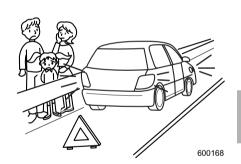
発炎筒には有効期限が明示されています。有効期限が切れる前に、スバル販売店でお求めください。

故障したとき

踏切で動けなくなったとき

脱輪などで脱出できないとき、非常ボタンがある踏切では、非常ボタンを押してください。
非常ボタンがない、位置がわからない、緊急を要するときは、発炎筒を使い合図をしてください。

600531

アドバイス

マニュアル車、オートマチック車ともエンジンスイッチをSTARTで保持して（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。

- オートマチック車はPおよびN以外ではスターターが回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

①車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

600167

②全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

600168

③安全を確保後、救援をたのみます。

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

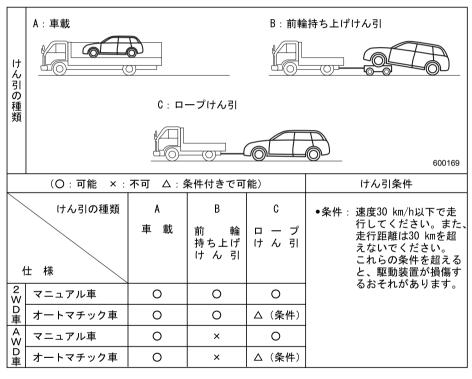
路上で動けなくなったとき

①あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
②エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。
そのとき、チェンジレバー、セレクトレバーは N にします。
☆3－47ページ参照

故障時の対応方法と連絡先

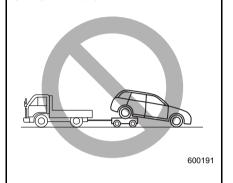
①車を安全な場所に移動する等、可能な範囲で安全を確保してください。
②最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
③スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスに連絡し、ご相談ください。

アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場と JAF ロードサービスの連絡先は別冊の「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。旅先では、別冊の「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場、JAFロードサービスに依頼してください。

けん引してもらうとき

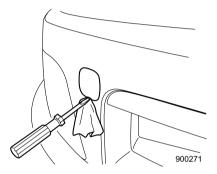
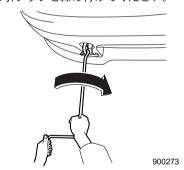
■けん引方法の違い

車の仕様によりけん引方法が違います。下記の表を参照し、車の仕様に合ったけん引をしてもらってください。

（○：可能　×：不可　△：条件付きで可能）

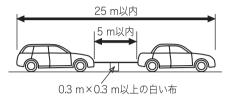
仕様 ＼ けん引の種類		A 車載	B 前輪持ち上げけん引	C ロープけん引	けん引条件
2WD車	マニュアル車	○	○	○	●条件：速度30 km/h以下で走行してください。また、走行距離は30 kmを超えないでください。これらの条件を超えると、駆動装置が損傷するおそれがあります。
2WD車	オートマチック車	○	○	△（条件）	
AWD車	マニュアル車	○	×	○	
AWD車	オートマチック車	○	×	△（条件）	

トランスミッション（変速機）や駆動装置、走行装置が故障したと思われる場合は車載してください。

注意

後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

けん引時は、指定のフックにソフトロープをかけて行ってください。

①バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの縁に差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

②ジャッキハンドルなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。

③ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3 m×0.3 m以上）をつけます。

④マニュアル車、オートマチック車ともに「ニュートラル」にします。
⑤エンジンスイッチをONにします。
⑥駐車ブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 警告

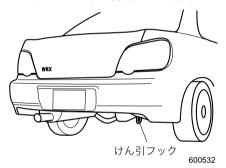
- エンジンスイッチを LOCK にしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注意

- マニュアル車、オートマチック車とも「ニュートラル」にしてください。
- エンジンスイッチを ON にしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
  - ・ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
  - ・パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキレバーを確実に戻してください。
- トランスミッション（変速機）および駆動装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4 輪を持ち上げて）けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

他車をけん引するとき

アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引してもらうときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引してもらうと、バンパーが損傷するおそれがあります。

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻く等の保護処置をしてください。

●けん引フックの位置

リヤバンパー下の右側にあります。

オーバーヒートしたとき

下記の場合は、オーバーヒートです。
- 水温計の針がオーバーヒートゾーンに入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

☆3－23ページ参照

⚠ 警 告

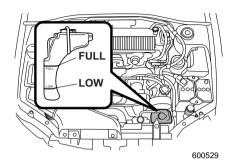
- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエターや補助タンクが充分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

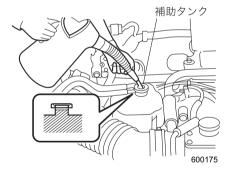
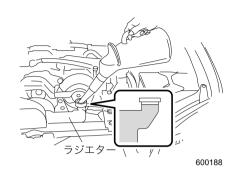
■対処のしかた

①後続車に注意し、安全な場所に車を止めます。

アドバイス

エアコンを使用している場合はエアコンを止めてください。

②エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。
このとき、冷却ファンが回っていることを確かめてください。
ファンが回っていないときは、エンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。

アドバイス

エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、後続車に注意し、車を安全な場所に止め、すぐにエンジンを止めてください。
スバル販売店に連絡してください。

③水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。
④エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。

⑤リザーバータンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは､補充します。リザーバータンクの FULL 位置まで補充します。

600529

⑥ターボ車はエンジン上部の補助タンクキャップの口元まで、ターボ車以外はラジエターキャップの口元まで補充します。

600175

ターボ車

600188

ターボ車以外

アドバイス

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。
- 冷却水がない場合は、応急的に水を補充します。補給する水は、軟水または水道水をご使用ください。
- ターボ車はラジエター側のキャップを外さないでください。
  冷却水または水を入れるときは、エンジン上部の補助タンクから入れてください。

⑦早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

下記の場合は、バッテリー上がりです。
- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき。
- ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき。

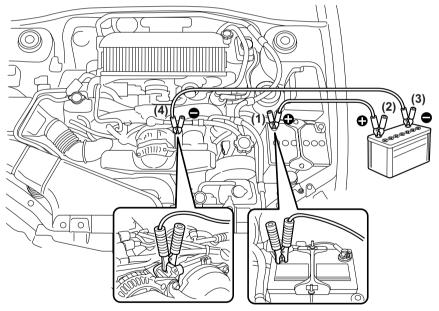
⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、以下を必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
  - ・プラス端子とマイナス端子を間違えないでください。
  - ・プラス端子とマイナス端子を接触させないでください。
  - ・自車のバッテリーのマイナス端子にケーブルを接続しないでください。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふに付くと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

⚠ 注意

ブースターケーブルを接続するときは次の項目をお守りください。
- 12Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器を傷めます。

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

①赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなぎます。(1)
②赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなぎます。(2)
③黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなぎます。(3)
④黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体（エンジンハンガーなど）につなぎます。(4)
⑤救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。
⑥自車のエンジンをかけます。
⑦ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

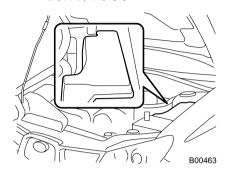
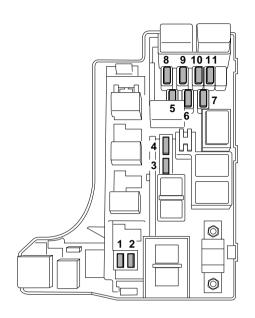
アドバイス

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆8－3ページ参照

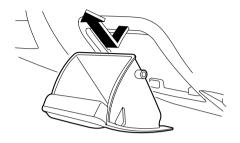
IMPREZA GD2-009301～099999, GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999, GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999, GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999, GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999, GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

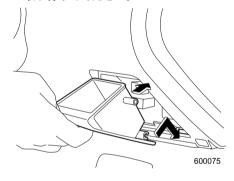
ヒューズの点検・交換

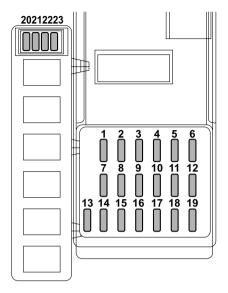
バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球（バルブ）切れが考えられます。
この場合、以下の手順で確認してください。
①エンジンスイッチをLOCKにします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
- 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏の表示で確認し、点検します。

③切れているときは、ヒューズを交換します。

■ヒューズボックスの位置

●エンジンルーム内

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。

エンジンルームヒューズボックス

No.	ラベル表示	容量（A）
1	MAIN FAN メイン ファン（ラジエータメインファン）	20
2	SUB FAN サブ ファン（ラジエータサブファン）	20
3	R DEF リア.デフ（リヤウインドゥデフォッガー）	20
4	HAZARD・HORN ハザード・ホーン（ハザードランプ、ホーン）	15
5	TURN ターン（ターンランプ）	15
6	AT+B（ATコントロールユニット）	10
7	ALT-S オルタ-S（オルタネータ）	10
8	H/L RH（ヘッドライト右側）	15
9	H/L LH（ヘッドライト左側）	15
10	LIGHTING ライティング（ライティングスイッチ）	20
11	CLOCK・ROOM クロック・ルーム（時計、ルームランプ）	20

●**室内**

コインドレイを開け、コインドレイを引き取り外します。

600074

取り付けはツメ部とピン部を合わせて取り付けてください。

600075

☆4－48ページ参照

室内ヒューズ ＆リレーボックス

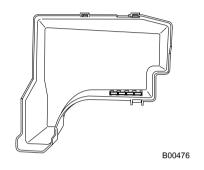
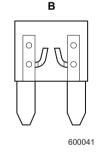
No.	ラベル表示	容量（A）
1	HEATER BLOWER ヒータ ブロア（ヒーターファン）	15
2	HEATER BLOWER ヒータ ブロア（ヒーターファン）	15
3	DOOR LOCK ドアロック（集中ドアロック、電波式リモコンドアロック）	15
4	MIRROR CIGAR ミラー シガライター（シガーライター、電動ドアミラー）	20
5	TAIL CLEARANCE テール クリアランス（尾灯、車幅灯）	10
6	SRS AIR BAG（SRSエアバッグ）	15
7	FOG LAMP（フロントフォグランプ）	15
8	ABS SOLENOID（ABSユニット）	20
9	RADIO AUDIO ラジオ オーディオ（オーディオ）	15
10	REAR FOG（リヤフォグランプ）	10
11	E/G IGN AIR BAG（イグニッションシステム、SRSエアバッグ）	15
12	ILLUMI イルミ（メーターイルミネーション）	10
13	METER SRS LAMP（メーター、SRSランプ）	10
14	REAR WIPER（リヤワイパー）	10
15	WIPER WASHER（フロントワイパー＆ウォッシャ）	30
16	STOP（制動灯）	20
17	A/C（エアコン）	15
18	BACK バック（後退灯）	15
19	DEICER（ワイパーデアイサー、ヒーテッドドアミラー）	20
20	空き	－
21	空き	－
22	空き	－
23	空き	－

■ヒューズの点検・交換

●ヒューズの外しかた

カバーの裏面にヒューズラベルが貼付されています。故障の状況から点検すべきヒューズを確認します。
ヒューズプラーをエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。

B00477

ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。

600160

●ヒューズが切れているとき

ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側にあるスペア（10A、15A、20A、30A各1個）と交換してください。
切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

B00476

A　　B

600041

切れていない状態　　切れている状態

⚠ 注 意

ヒューズを交換するとき

- 必ずエンジンスイッチをLOCKにしてください。ONやAccの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。
  指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

アドバイス

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後はスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき

- ライト類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。

☆7－15ページ参照

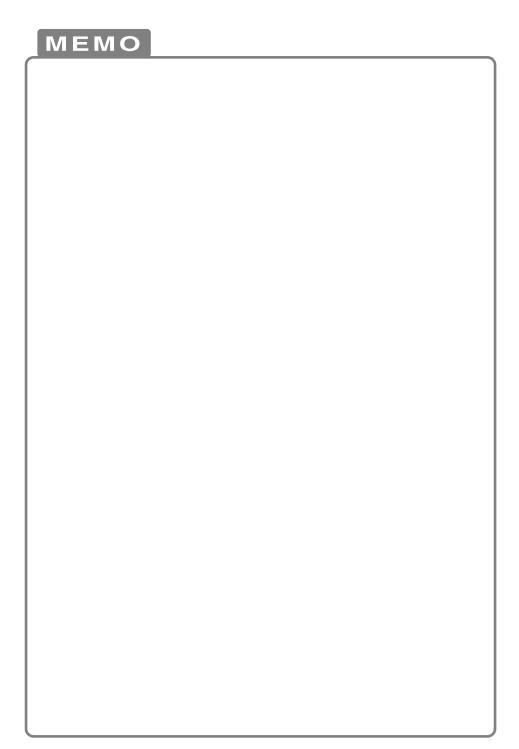
  また、電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください
他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください
負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください
事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください
相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください
ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

7 車　の　手　入　れ

・車の手入れ

車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

下記のような場所を走行した後や、塗装面に異物が付着した場合は、必ず洗車してください。
また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道を走行した後は、錆の原因となりますので車体の下廻り、足廻りを念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。

■保管のしかた

車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない風通しのよい場所。
- 鉄道線路わきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばを避けます。
- いたずらされにくい場所。

アドバイス

- ラフロード等を走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロード等の走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線等に傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外に車を止めると車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターやスプレー缶など）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長い間車を使用しない場合には、駐車ブレーキを引かずに“1”あるいは“R”（マニュアル車）／P（オートマチック車）に入れ、輪止めをして車が動かないようにしてください。
  また、ワイパーを立てておいてください。ブレード（ゴム）のくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、下記の点をお守りください。
  - ・スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
  - ・ときどき水洗いして砂ぼこりなどを洗い流してください。
  - ・風で飛ばされないように確実にかけてください。
  - ・雨の後はボディカバーを外し、車とボディカバーを乾かしてください。
- 使用条件により、ブレーキの塗装部分の色の変化や、塗装の剥がれが発生する場合があります。

外装の手入れ

■洗車のしかた

- 水を充分かけながら洗車します。
- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥や砂などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

⚠ 注 意

- **エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、クラッチ切れ不良、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。**
- **洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。**

アドバイス

- ターボ車において、ボンネットのエアインテークグリルには水をかけないでください。
- アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。
  汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。

●自動洗車機を使うとき

- ルーフアンテナ付車はロッドを取り外し、ロッドアンテナ付車はアンテナを縮めてください。

☆4－19ページ参照

- ドアミラーを格納してください。
- リヤスポイラー付車を洗車する場合、上面ブラシやエアブローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアブローダクトがリヤスポイラーに引っかかり、リヤスポイラーを損傷することがあります。
- 自動洗車機の種類によっては、ブラシが引っかかりリヤワイパーを損傷させるおそれがあります。洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認し、リヤワイパーを損傷させるおそれがある場合はリヤワイパーをガムテープで固定してください。係員がいる洗車場では、係員の指示に従ってください。
- マイカ塗装車はすり傷が目立ちやすいので、スポンジやセーム皮での手洗いをお奨めします。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分の変形、損傷や車内に水が入ることがあります。
- ターボ車において、ボンネットのエアインテークグリルに洗車ノズルを近づけないでください。インタークーラーのフィンが曲がることがあります。

■ワックスのかけかた
洗車のあと、ボディの温度が体温以下のときワックスがけをします。

アドバイス
お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

■バンパー塗装面のお手入れ
バンパーの塗装面を末永くきれいな状態でお乗りいただくために、以下のような日常のメンテナンス方法をお奨めします。
①中性洗剤を用いてバンパーに付着した汚れをよく洗い落としてください。
②塗装表面に汚れが付着した状態で長期間放置すると、汚れが表面に固着して落ちにくくなりますので、こまめな洗車を行ってください。（少なくとも月に1回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。）
③洗車をしてもバンパーの汚れが落ちきらない場合は、微粒子コンパウンド、またはコンパウンド入りワックス（推奨品；サンジェット2000）を用いてのお手入れを行ってください。
④最後にワックス仕上げを行ってください。

アドバイス
【酸性雨に注意】
バンパーに限らず、雨（酸性雨）が降ったときは、出来る限り塗膜上の水分が蒸発する前の洗車をお奨めします。そのままの状態で時間が経過すると、塗膜が酸で侵される事があります。その他、鳥糞・虫・花粉・樹液などの付着は、放置されると塗膜を侵す原因となりますので早めに洗い落としてください。

■ガラスの手入れ
油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
ガラス洗浄剤はスバル純正品を使用してください。

アドバイス
- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用しますと、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなると同時に夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドライトでガラスがぎらぎら光り大変危険です。
  このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。
- リヤガラス（電熱線）を車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗浄剤を使うと、リヤウインドゥデフォッガーの電熱線を損傷することがあります。

内装の手入れ

①カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
②水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
③直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

⚠ 警 告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

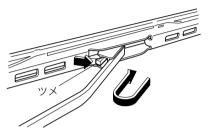
- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

■本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5%濃度にうすめた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。
残った洗剤分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油汚れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

■その他の手入れ

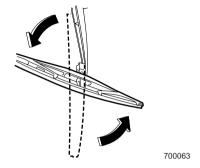
エアコン操作部、メーター、オーディオ操作部、インストルメントパネル、コンソールボックス、スイッチなどのプラスチック部品を清掃するときは、ぬれた柔らかい布を使用してください。
きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。

ワイパーブレードの交換

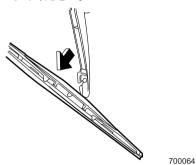
■ワイパー本体の交換

●フロント、リヤ（セダン）

①ワイパーアームについているツメを押しながらブレードを矢印の方向に引いて外してください。

700370

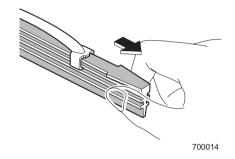
②ワイパーアームに新品のワイパーブレードを取り付けてください。
このとき、ブレードのフックが確実に固定されていることを確認してください。

700155

③手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

●リヤ（ワゴン）

①ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを反時計回りに回してください。

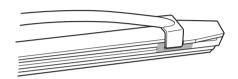
700063

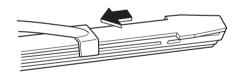
②ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外してください。

700064

③ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

■ブレードラバーの交換方法

●フロント

①古いブレードラバーを引き抜きます。図のように凸部分をつまんで引き抜いてください。

700014

②新しいブレードラバーを挿入します。このとき、ラバーの溝を間違えないように挿入してください。

700015

③ブレードラバー先端のストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。
適切に挿入されていないとガラス面に傷をつけるおそれがあります。

700016

④確実に装着されているか、確認してからワイパーを作動させてください。
適切に装着されていないと、ガラス表面に傷をつけるおそれがあります。

●リヤ

①ブレードラバー端部をワイパーブレードから外してください。

700017

②ワイパーブレードのツメ部からブレードラバーを引き抜いてください。

700018

③ワイパーブレードに新品のワイパーブレードラバーを挿入してください。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認してからワイパーを作動させてください。適切に装着されていないと、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

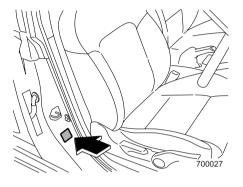
アドバイス

- ワイパーブレード本体およびブレードラバー（ゴム）はスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けるとガラスに傷をつけるおそれがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。
- ワイパーブレードの寸法は下記のとおりです。
  フロント
  運転席側：550 mm
  助手席側：425 mm
  リヤ
  ワゴン　：350 mm
  セダン　：375 mm
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながら、ゆっくりとウインドゥガラス面へ戻してください。スプリングの力だけで離れた位置から戻すとワイパーアームの変形や、フロントガラスに傷がつくことがあります。

タイヤおよびホイール

■タイヤの点検

タイヤに大きな傷がないか、くぎがささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。
タイヤが異常に摩耗していないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらスバル販売店にご相談ください。

注 意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。
  また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

■タイヤ空気圧と摩耗

タイヤの空気圧を適正に保つことは、タイヤの寿命を延ばすだけでなく走行性能の点で非常に重要です。スペアタイヤを含むタイヤの空気圧は、最低でも月に1回は燃料補給の際等に点検し正しく調整してください。また、長距離走行の前にも必ず点検してください。

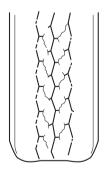
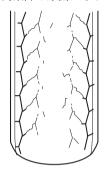
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに実施してください。空気圧ゲージを使用し、タイヤ空気圧ラベルに記載されている指定値どおりに調整してください。
タイヤ空気圧ラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。

700027

タイヤはわずかな距離を走っただけでも暖まり空気圧は上昇します。また、タイヤの空気圧は気温の影響も受けますので、空気圧の点検は屋外で運転開始前に行うのが最良です。
タイヤが暖まっているとタイヤの中の空気が膨張するために空気圧は高くなります。誤って空気圧を下げないでください。

⚠ 注 意

- 扁平タイヤ（45タイヤなど）の空気圧は、見ためではわかりづらいため、必ず空気圧ゲージで点検してください。
- タイヤが暖まっているときは約 30 kPa（0.3 kgf/cm²）空気圧が高くなります。
- タイヤが冷えているときというのは、車を 3 時間以上駐車しておくか、走行距離が1 km以下の走行を意味します。

タイヤ空気圧が適正でないと操縦性能や乗り心地を悪化させるとともにタイヤの偏摩耗や異常摩耗の原因となります。

- 空気圧が適正である場合…
  タイヤの接地面が均一に摩耗。
  路面との接地性が良くハンドル操作が正確になります。
  車輪の抵抗が減るため燃料消費量が減少します。

700019

- 空気圧が不足している場合…
  タイヤの接地面の端部が摩耗。
  車輪の抵抗が増えるため燃料消費量が増加します。

700020

- 空気圧が過大な場合…
  タイヤ接地面の中央部が摩耗。
  車の乗り心地が悪くなります。
  タイヤが路面の凹凸の影響を受けやすくなり、車両故障の原因になります。

700021

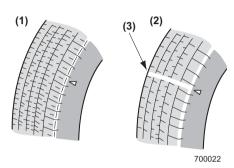
⚠ 警告

とくに空気圧が低い状態のまま高速走行するとタイヤは極端に変形しタイヤ自体の温度が急激に高くなります。タイヤ温度の急激な上昇は、タイヤの接地面にセパレーション（剥離現象）を生じさせ、タイヤの破裂を引き起こす原因になることもあります。その結果、車両のコントロールを失い事故につながるおそれがあります。

■ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。
ホイールバランスの狂いによる振動を感じたらスバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

■ホイールアライメント

車両の走行安全性の確保およびタイヤの異常摩耗防止のため、あらかじめサスペンションおよびホイールに設定されている角度です。
縁石にぶつかったりするとホイールアライメントが狂うことがあります。

⚠ 注 意

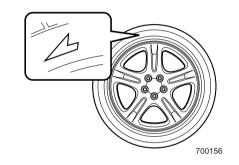
ホイールアライメントが狂っていると、タイヤの片側だけが摩耗したり走行安定性が低下します。タイヤの異常摩耗に気がついたらスバル販売店にご相談ください。

■ウエアインジケーター

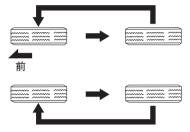
タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗状況を表示するもの）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが1.6 mm以下になると現れます。
タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

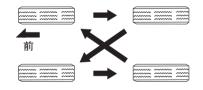
(1)新品タイヤ
(2)摩耗したタイヤ
(3)ウエアインジケーター

⚠ 警告

ウエアインジケーターが現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。
ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象*を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。
＊：水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

⚠ 注意

安全のためにタイヤの接地面を定期的に点検しウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

■回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転方向マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの摩耗は、各タイヤごとで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 km ごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

〈回転方向指定タイヤの場合〉

700400

〈回転方向指定タイヤ以外の場合〉

700401

アドバイス

タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。
タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットの締め付けを確認してください。
約1,000 km走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。

■タイヤの交換

ホイールおよびタイヤは単なる付属品ではなく、設計上でも大変重要な役割を果たしています。
お車には、走行性能と乗り心地と寿命をバランスさせた、車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。
タイヤを交換するときは、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

⚠ 警 告

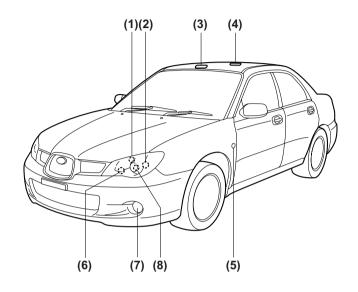
- 4 輪のうち 1 輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - ・4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ・応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

  なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。
- ラジアルタイヤ以外は装着しないでください。操縦性を危険なものにし、事故につながるおそれがあります。

■ホイールの交換

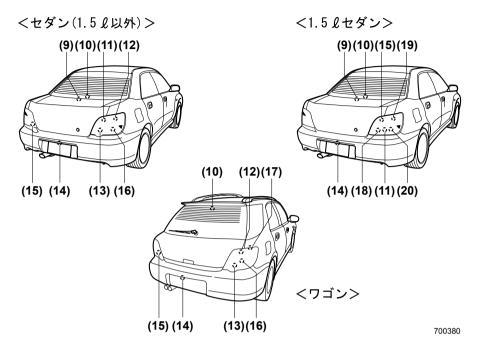
- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズはサービスデータをご覧ください。

☆8－6ページ参照

⚠ 警 告

仕様違いのホイールを装着しないでください。ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることで操舵時にタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ホイールは、リムサイズやオフセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、スバル販売店にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- タイヤやホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

電球（バルブ）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはスバル販売店にご相談ください。

番号	電球（バルブ）		容量	バルブ形式
（１）	車幅灯（ポジションランプ）		12V-5W	W5W
（２）	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-21W	WY21W
（３）	スポットマップランプ		12V-8W	―
（４）	ルームランプ		12V-8W	―
（５）	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-5W	※
（６）	前照灯（ヘッドランプ）ハイビーム		12V-60W	HB3
（７）	前部霧灯（フロントフォグランプ）	標準バンパー	12V-51W	HB4
		スポーティバンパー	12V-55W	H3
（８）	前照灯（ヘッドランプ）ロービーム	ハロゲン	12V-55W	H7
		HID	12V-35W	D2S

※バルブ交換時はランプASSY交換になります。

番号	電球（バルブ）		容量	バルブ形式
(9)	トランクランプ（STI spec Cは除く）		12V-5W	W5W
(10)	ハイマウントストップランプ(セダン)	室内置き	12V-21W	P21W
	ハイマウントストップランプ(ワゴン)	標準ガラス	12V-13W	―
		濃色ガラス	12V-16W	W16W
(11)	尾灯		12V-21W/5W	W21/5W
(12)	制動灯 兼 尾灯		12V-21W/5W	W21/5W
(13)	後部霧灯（リヤフォグランプ）		12V-21W	W21W
	後退灯（リヤフォグランプなし車）		12V-21W	W21W
(14)	番号表示灯（ライセンスランプ）		12V-5W	W5W
(15)	後退灯		12V-21W	W21W
(16)	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-21W	WY21W
(17)	カーゴルームランプ		12V-5W	W5W
(18)	後部霧灯（リヤフォグランプ付車）		12V-21W	W21W
(19)	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-21W	PY21W
(20)	制動灯		12V-21W/5W	W21/5W

セダンのスポイラー内蔵型ハイマウントストップランプはLEDタイプとなります。交換はスバル販売店にご相談ください。

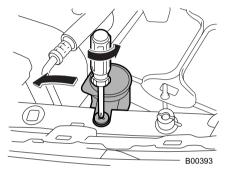
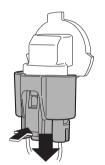
⚠ 警告

HID ヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。HID ヘッドランプのバルブ交換はスバル販売店にご依頼ください。

⚠ 注意

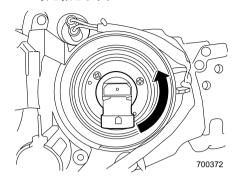
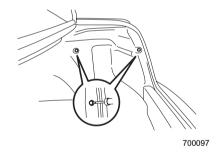
- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。
  取り扱いには充分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。

アドバイス

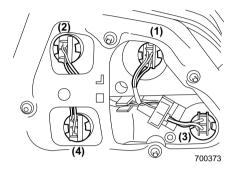
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。
  電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法令で定められた光軸調整が必要となります。
  スバル販売店にご相談ください。
- レンズをネジで締め付けるとき、締め過ぎてレンズを割らないように気をつけてください。

■ヘッドランプ

助手席側（バッテリー側）のハイビームのみ交換できます。

●ハイビーム

①ウォッシャータンクをとめているクリップを取り外し、ウォッシャータンクのノズル部を傾けてください。

B00393

②コネクターを抜きます。

700093

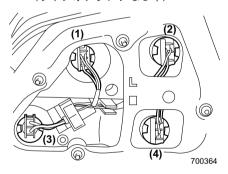
③電球を反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

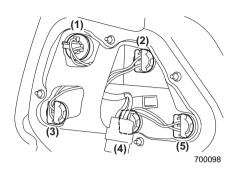
700372

■リヤコンビネーションランプ

●セダン

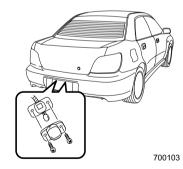
①トランクリッドを開けます。

②内張りのクリップを2か所外します。（STI spec C はカバーのネジについているクリップを2か所外します。）

700097

③内張りをめくり、リヤコンビネーションランプ本体から、電球のソケットを反時計回りに回しソケットごと引き抜きます。

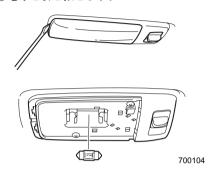
〈リヤフォグランプ付車〉

(1) 尾灯
(2) 制動灯 兼 尾灯
(3) 後部霧灯（リヤフォグランプ）
(4) 後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

〈リヤフォグランプなし車〉

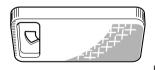
(1) 尾灯
(2) 制動灯 兼 尾灯
(3) 後退灯
(4) 後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

〈1.5 ℓ セダン〉

(1) 後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯
(2) 後退灯
(3) 制動灯
(4) 尾灯
(5) 後部霧灯（リヤフォグランプ）

④電球をそのまま引き抜きます。
1.5 ℓ セダンの（1）の電球は、電球を押しながら反時計回りに回して取り外します。

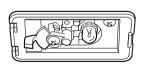
■番号表示灯

①ネジ（2本）をゆるめ、レンズを外します。
②ソケットから電球を引き抜きます。

■ルームランプ

①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。
②電球を引き抜きます。

700104

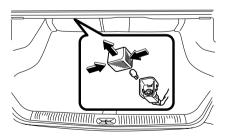
> **アドバイス**
>
> **レンズを外すとき**
> レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■カーゴルームランプ

①レンズを取り外します。
②電球を引き抜きます。

B00461

■スポットランプ

①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。
②電球を引き抜きます。

700106

> **アドバイス**
>
> **レンズを外すとき**
> レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

■トランクルームランプ

●セダン（STI spec Cは除く）

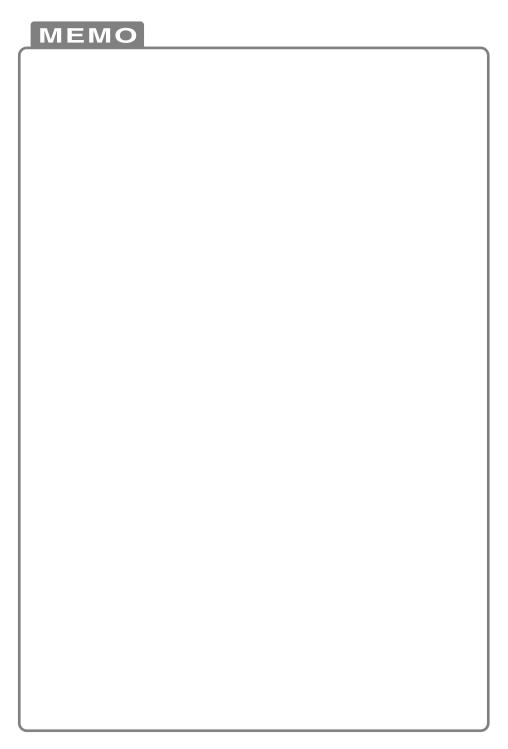
①トランクリッドを開けます。
②レンズの側面を押しながら、レンズを手前に引き抜きます。
③ソケットから電球を引き抜きます。

700163

■ハイマウントストップランプ
●ワゴン

700377

①リヤゲートを開けます。
②ネジ（２本）をゆるめ、ハイマウントストップランプカバーを取り外します。
③電球を引き抜き、新しい電球を取り付けます。
④ハイマウントストップランプカバーを取り付け、ネジ（２本）を締め付けます。

■その他のランプ
電球交換の作業が難しいものもありますので、スバル販売店へ依頼してください。

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

オルタネータ　パワーステアリングベルトのたわみ量（点検時）		ベルト中央部を約100N（約10 kgf）の力で押したとき		9～11 mm
エアコンベルトのたわみ量（点検時）		ベルト中央部を約100N（約10 kgf）の力で押したとき		9～10 mm
スパークプラグ	車種＼指定スパークプラグ	品番	メーカー	電極すき間
	1.5i	※PFR5B-11	NGK	1.0～1.1 mm
	1.5R	※ILFR6B	NGK	0.7～0.8 mm
	WRX	※PFR6G	NGK	0.7～0.8 mm
	STI、STI spec C	※PFR7G	NGK	0.7～0.8 mm
	交換時期	100,000 km（白金プラグ使用）		
ブレーキペダル	遊び	指で押して		1～3 mm
	踏み込んだときの床板とのすき間	約300N（約30 kgf）の力で踏み込んだとき		85 mm以上
クラッチペダル	遊び	指で押して	1.5 ℓ車	約10～20 mm
			2.0 ℓ車	約3～13 mm
	つながる直前の床板とのすき間	―――		80 mm以上
駐車ブレーキの引きしろ		約200N（約20 kgf）の力でゆっくり引いたとき		7～8 ノッチ
タイヤ空気圧		8－6ページ参照		
ウォッシャータンク容量		下記車種以外		4.0 ℓ
		STI spec C		3.0 ℓ
燃料タンク容量	1.5i、1.5R	無鉛レギュラーガソリン使用		約50 ℓ
	WRX、STI	無鉛プレミアムガソリン使用		約60 ℓ
	STI spec C	無鉛プレミアムガソリン使用		約50 ℓ
エアクリーナーエレメント	使用部品	純正エアクリーナーエレメント		
	交換時期	50,000 kmごと		

〈注〉※印　イリジウムおよび白金スパークプラグは、次のことに注意してください。
電極材料に貴金属を使用しています。電極を損傷するおそれがあるため、プラグクリーナー等による清掃やプラグギャップ（電極すき間）調整は行わないでください。

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">バッテリー型式
MT：マニュアル車
AT：オートマチック車</td><td>STI spec C</td><td colspan="2">34B19L</td></tr>
<tr><td>1.5 ℓ</td><td colspan="2">55D23L</td></tr>
<tr><td>2.0 ℓ MT車</td><td colspan="2">55D23L</td></tr>
<tr><td>2.0 ℓ AT車</td><td colspan="2">65D23L</td></tr>
<tr><td rowspan="12">エンジンオイル</td><td rowspan="5">使用オイル</td><td colspan="2">スバルモーターオイル SM 5W-30</td><td>5W-30
（SM級）</td></tr>
<tr><td colspan="2">スバルモーターオイル SM 0W-20
（ターボ車以外のみ使用可）</td><td>0W-20
（SM級）</td></tr>
<tr><td colspan="2">スバルモーターオイル SL 5W-30</td><td>5W-30
（SL級）</td></tr>
<tr><td colspan="2">FREEDOM</td><td>10W-30</td></tr>
<tr><td colspan="2">エルフ 10W-50 レ・プレイアード</td><td>10W-50</td></tr>
<tr><td rowspan="6">規定量</td><td></td><td>オイルのみ
交換</td><td>オイルと
フィルター
同時交換</td></tr>
<tr><td>1.5i、1.5R</td><td>約4.0 ℓ</td><td>約4.2 ℓ</td></tr>
<tr><td>WRX AT車</td><td>約4.0 ℓ</td><td>約4.2 ℓ</td></tr>
<tr><td>WRX MT車</td><td>約4.0 ℓ</td><td>約4.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>STI、STI spec C</td><td>約4.0 ℓ</td><td>約4.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>STI spec C空冷オイル
クーラー付</td><td>約4.0 ℓ</td><td>約4.6 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">10,000 kmごと、または12か月ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンの
オイルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="3">純正オイルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">10,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="3">フューエルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="3">純正フューエルフィルター</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>1.5R以外</td><td colspan="2">60,000 kmごと</td></tr>
<tr><td>1.5R</td><td colspan="2">100,000 kmごと</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="6">トランスミッション
オイル
（マニュアル車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="3">スバルギヤオイルエクストラS　75W-90
（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">規定量</td><td colspan="2">STI spec C</td><td>約4.4 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">6 MT車</td><td>約4.1 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">5 MT車</td><td>約3.5 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">5 MT車（FWD）</td><td>約3.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="5">トランスミッション
オイル
（オートマチック車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="3">スバルATF</td></tr>
<tr><td rowspan="3">規定量</td><td colspan="2">1.5 ℓ 車（FWD）</td><td>約8.0 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.5 ℓ 車（AWD）</td><td>約8.4 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.0 ℓ ターボ車</td><td>約9.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="3">デファレンシャル
オイル
（オートマチック車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="3">スバルギヤオイルエクストラS　75W-90
（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="3">約1.2 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">リヤデファレンシャル
オイル</td><td>量の判定基準</td><td colspan="3">フィラープラグ穴下端より
0～－5 mm間にあること</td></tr>
<tr><td>使用オイル</td><td colspan="3">スバルギヤオイルエクストラS　75W-90
（GL-5相当）
機械式LSD付車：スバルギヤオイルLSD</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="3">約0.8 ℓ・STI車：約1.0 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="7">冷却水</td><td>使用冷却水</td><td colspan="3">スバルクーラント</td></tr>
<tr><td rowspan="4">規定量</td><td rowspan="2">ターボ車</td><td>AT車</td><td>約7.6 ℓ</td></tr>
<tr><td>MT車</td><td>約7.7 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ターボ車以外</td><td>AT車</td><td>約7.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>MT車</td><td>約7.4 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>1回目</td><td colspan="2">40,000 kmまたは3年目
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td>2回目以降</td><td colspan="2">40,000 kmごと、または2年ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パワーステアリングの
フルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="3">スバルPSフルード</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="3">約0.7 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキフルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="3">スバルブレーキフルード（DOT3）
（銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと）</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">初回3年、以降2年ごと</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">ドラムブレーキのシューのライニング摩耗限度</td><td>後輪ドラムブレーキ</td><td colspan="3">使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td>後輪ディスクブレーキの駐車ブレーキ</td><td colspan="3">使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ディスクブレーキのパッドの摩耗限度</td><td>前輪</td><td colspan="3">使用限度：1.5 mm（ブレンボ装着車1.2 mm）</td></tr>
<tr><td>後輪</td><td colspan="3">使用限度：1.5 mm（ブレンボ装着車1.2 mm）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">点火時期</td><td></td><td colspan="2">マニュアル車</td><td>オートマチック車</td></tr>
<tr><td>1.5i</td><td colspan="2">BTDC10°/570 rpm</td><td>BTDC10°/650 rpm</td></tr>
<tr><td>1.5R</td><td colspan="2">———</td><td>BTDC15°/650 rpm</td></tr>
<tr><td>WRX</td><td colspan="2">BTDC12°/650 rpm</td><td>BTDC12°/700 rpm</td></tr>
<tr><td>STI、
STI spec C</td><td colspan="2">BTDC12°/700 rpm</td><td>———</td></tr>
<tr><td rowspan="3">弁すき間</td><td rowspan="3">冷態時</td><td colspan="2">吸気</td><td>0.20 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">排気</td><td>1.5i</td><td>0.25 mm</td></tr>
<tr><td>1.5i以外</td><td>0.35 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">エンジンのタイミングベルト</td><td>使用ベルト</td><td colspan="3">専用タイミングベルト</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="4">(2)
(1)
800283</td></tr>
<tr><td colspan="4">(1) エンジンタイミングベルト（ベルトカバー内）
(2) 交換表示ラベル</td></tr>
</table>

サービスデータ

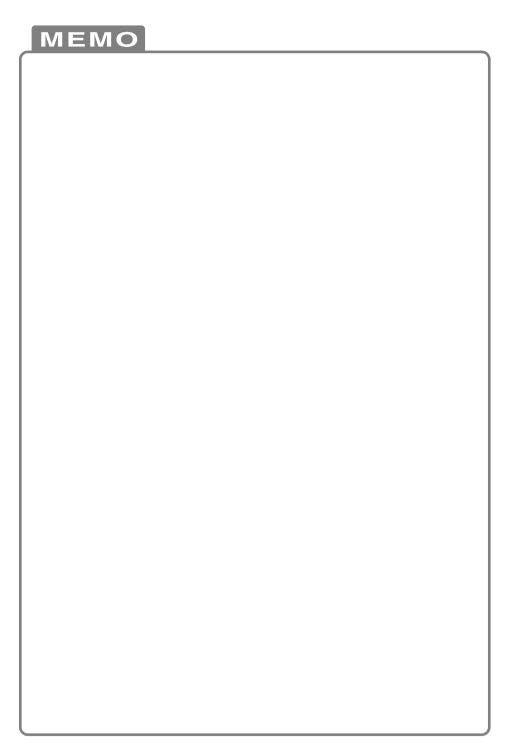
<タイヤ・ホイール>

- 標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。
- 参考：標準装着タイヤおよび応急用スペアタイヤ（車種・グレードによって異なります）

■ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	オフセット量
175/70R14	14×5 1/2JJ	100	55
195/60R15	15×6JJ	100	55
205/50R16	16×6 1/2JJ	100	55
205/55R16	16×6 1/2JJ	114.3	55
215/45R17	17×7JJ	100	55
235/45R17※	17×8JJ	114.3	53
T125/70D15	15×4T	100	53
T125/70D16	16×4T	100	50
T135/70D16	16×4T	100	50
T135/70D17	17×4T	114.3	40

■タイヤ空気圧（標準装着タイヤ）

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm²）		
	前輪	後輪	備考
175/70R14	220（2.2）	200（2.0）	セダン
175/70R14	230（2.3）	210（2.1）	ワゴン
195/60R15	220（2.2）	200（2.0）	セダン
195/60R15	230（2.3）	210（2.1）	ワゴン
205/50R16	220（2.2）	200（2.0）	セダン／ワゴン
205/55R16	230（2.3）	190（1.9）	セダン
215/45R17	230（2.3）	190（1.9）	セダン
215/45R17	220（2.2）	200（2.0）	ワゴン
235/45R17※	230（2.3）	190（1.9）	セダン

〈注〉※印　冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する場合は 225/45R17 を推奨します。
（タイヤ空気圧は235/45R17と同一です。）

■タイヤ空気圧（応急用スペアタイヤ）

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm²）
T125/70D15	420（4.2）
T125/70D16	
T135/70D16	
T135/70D17	

■タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの溝の深さ	1.6 mm以下

さくいん

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

ね

は

ひ

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

IMPREZA GD2-009301～099999,GD3-006701～099999,
GDA-020201～099999,GDB-040301～099999,
GDC-002001～099999,GDD-002001～099999,
GG2-079301～099999,GG3-048601～099999,
GGA-014601～099999,GGC-002001～099999,
GGD-002001～099999

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120－052215

受付時間　9:00〜17:00(平日)、土日祝は9:00〜12:00、13:00〜17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12：00〜13：00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　**富士重工業株式会社**

スバルカスタマーセンター
カスタマーセンター企画部

IMPREZA GD2-009301〜099999, GD3-006701〜099999,
GDA-020201〜099999, GDB-040301〜099999,
GDC-002001〜099999, GDD-002001〜099999,
GG2-079301〜099999, GG3-048601〜099999,
GGA-014601〜099999, GGC-002001〜099999,
GGD-002001〜099999